

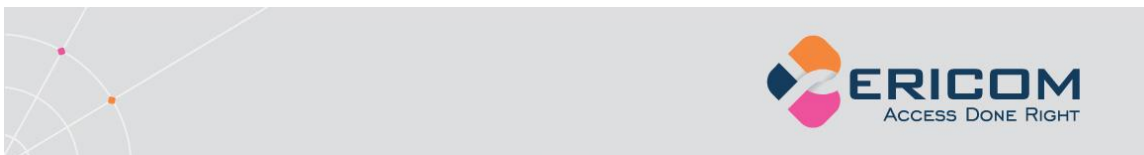


# Ericom AccessNow<sup>TM</sup>

HTML5 Access for Microsoft Remote  
Desktop Protocol (RDP)

**管理者用マニュアル**

**バージョン 7.5.1**



## 法律上の表示

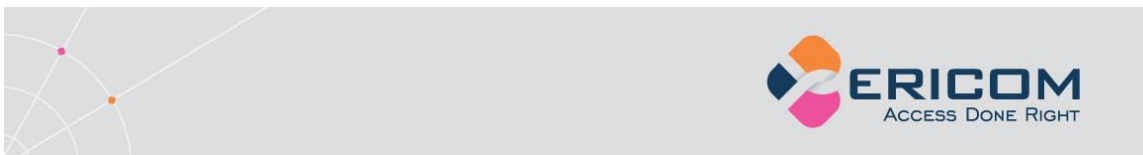
このマニュアルは以下の条件ならびに制限の対象となります:

- このドキュメントは Ericom AccessNow™ に関する資料です。
- この情報の所有権は Ericom® Software に属し、明示的かつ適切に認められた Ericom AccessNow™ ユーザの支援のみを目的として提供されています。
- ドキュメントの内容のいかなる部分も、電子的または機械的ないかなる手段により、いかなる目的で、いかなる個人や会社に対しても、Ericom® Software からの書面による事前の許可なしに公表してはなりません。
- テキストやグラフィックスは例示や参考のみを目的としています。ドキュメント内容の基となる仕様は事前の報告なしに変更される場合があります。
- このドキュメントで説明されているソフトウェアはライセンス契約のもとで提供されています。このソフトウェアは契約条件に従ってのみ、利用あるいは複製することができます。
- このドキュメントの情報は事前の報告なしに変更される場合があります。例示で使用されている企業や個人の名称などは、注意書きがない限り架空のものです。

ANAdminMan20160308

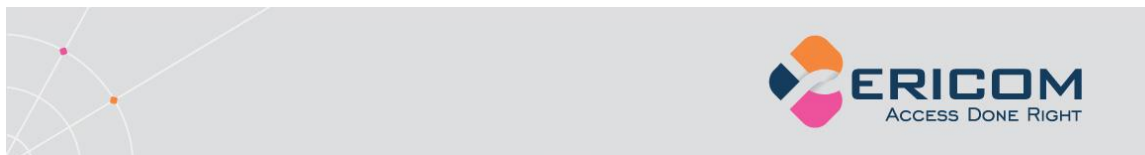
Copyright © 1999-2016 Ericom® Software.

Ericom は Ericom® Software の登録商標であり、AccessNow は Ericom® Software の商標です。その他の企業ブランド、製品名やサービス名は各社の商標または登録商標です。

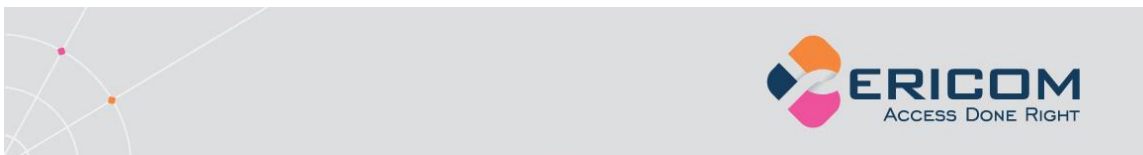


## 目次

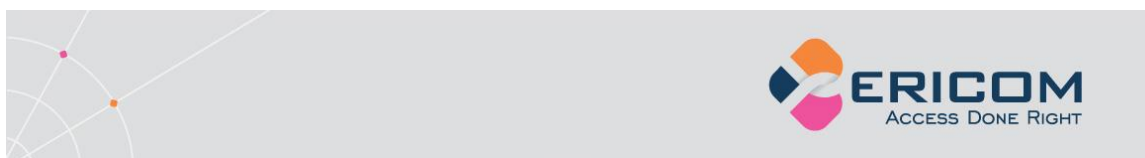
法律上の表示.....	2
このドキュメントについて .....	7
1. 概要 .....	9
RDP の圧縮とアクセラレーション.....	10
5 分で使用を開始する .....	11
2. Ericom Access Server .....	13
Ericom Access Server 要件.....	13
Ericom Access Server のインストール.....	16
Ericom Access Server の使用.....	17
ビルトインのログイン・スクリプト .....	24
3. ライセンスの概要.....	27
評価(デモ)期間.....	27
ライセンス・モード .....	27
セントラル・サーバの設定 .....	28
4. AccessNow Web クライアント.....	32
AccessNow Web クライアント・コンポーネントをインストールする .....	32
5. HTML5 ユーザ アクセス.....	34
サポートされているブラウザ .....	34
AccessNow ログイン・ページ .....	34
デスクトップと接続する .....	40



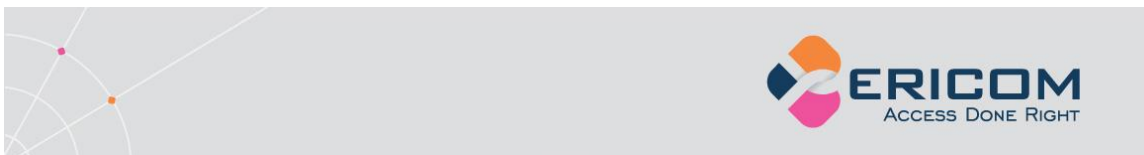
アプリケーションに接続する .....	41
キオスク・モードでアプリケーションに接続する .....	42
ディスプレイの自動サイズ調整 .....	42
特殊キーの処理 .....	43
AccessNow ツールバー .....	45
クリップボードのサポート .....	46
ファイル転送 .....	48
ビルトインの汎用ドライバ印刷 .....	50
URL リダイレクト .....	54
セッションを終了する .....	55
自動再接続 .....	55
文字入力の問題を解決する(スキャン・コード入力を有効にする) .....	56
Google Chromebook .....	57
タッチ・デバイス(タブレットとスマートフォン) .....	58
<b>6. 高度な設定 .....</b>	<b>60</b>
AccessNow のインターフェースを変更する .....	60
接続名を変更する .....	61
Config.js の静的な設定 .....	62
URL クエリーの文字列を渡す .....	62
設定グループを定義する .....	64
Cookie を使用して設定を渡す .....	64
暗号化されたパラメータを渡す .....	65
設定の優先順位 .....	65



Form POST を使用して設定を渡す .....	66
設定一覧表 .....	67
iframe に AccessNow を埋め込む .....	77
サンプル HTML : AccessNow に Cookie を渡す .....	78
AccessNow ファイル転送 API .....	80
キーボード・ロケール(レイアウト)値のテーブル .....	84
<b>7. Security .....</b>	<b>86</b>
信頼された証明書を使用する .....	86
<b>8. SSL VPN の設定 .....</b>	<b>90</b>
バージョン 7.4 での Web プロキシ(ダウンロード不要) .....	90
以前のバージョンの Juniper での Web プロキシ (ダウンロード不要) .....	92
Cookie を使用した SSO .....	93
POST を使用した SSO .....	94
ポータルでの複数ブックマークのサポート .....	95
<b>9. HTTPS モード .....</b>	<b>96</b>
HTTPS モードを強制する .....	97
<b>10. テクニカル・サポート .....</b>	<b>98</b>
AccessNow で TS/RDS CAL (接続デバイス数)を使用する際の注意点 .....	98
ブラウザ拡張機能の競合 .....	98
AccessNow での外国語の印刷 .....	99
AccessNow Gateway (Jump)モードの制限 .....	99
HTTPS と SSL 暗号化 .....	99
RDP SSL を無効にする .....	100



Mac での右クリック .....	100
接続を確認するためのデモサイト .....	100
サポートを依頼する .....	101
ERICOM について .....	102



## このドキュメントについて

このマニュアルでは、HTML5 対応の Web ブラウザから仮想デスクトップやターミナル・サーバに接続するための、Ericom AccessNow のインストールと利用の方法が説明されています。このマニュアルの説明に沿って、すぐに Ericom AccessNow の機能を使い始めることができます。

このマニュアルには、以下の情報が記載されています。

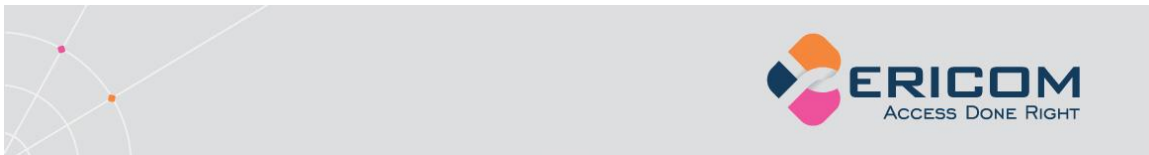
- Ericom AccessNow の概要
- 事前準備とインストールの手順
- 使用方法
- トラブルシューティングとよくある質問

このマニュアルでは、以下の知識のある読者を想定しています。

- Windows オペレーティング システムでの RDP の有効化
- ファイアウォールの設定
- Web サーバの管理

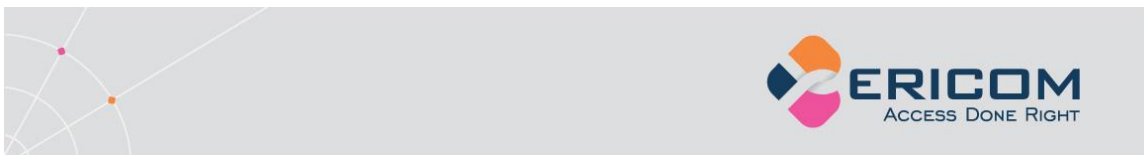
このドキュメントで使用する重要な用語

- RDP: リモート・デスクトップ・プロトコル(Remote Desktop Protocol)の略。Microsoft にて開発されたリモートディスプレイのプロトコル。RDP は Microsoft Windows の標準的なコンポーネントのひとつです。
- RDP ホスト: Microsoft RDP を使用してリモートよりアクセスできる Windows システム。ターミナル・サーバ(RDS セッション・ホスト)やリモート・アクセスが可能な Windows ワークステーションなど。
- HTML5 : HTML 規格の新しいアップデート。HTML にコミュニケーションや表示などのために新たな特徴や機能を追加拡張。



- WebSocket: HTML5 規格で公開された双方向・全二重の通信用メカニズム。
- SSL: セキュア・ソケット・レイヤー(Secure Sockets Layer)はインターネット上で安全なコミュニケーションを提供するための暗号化プロトコルです。





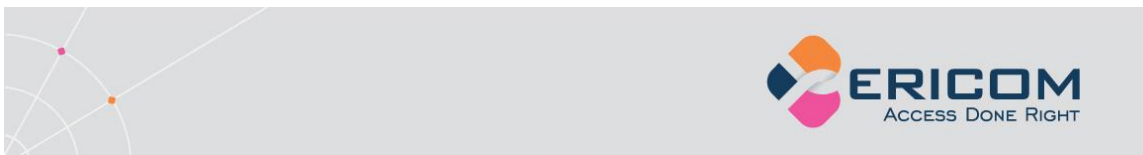
# 1. 概要

Ericom AccessNow により、エンドユーザが HTML5 対応 Web ブラウザから Windows デスクトップやアプリケーションにリモート・アクセスすることが可能になります。ユーザは HTML5 Canvas をサポートするすべてのブラウザをクライアントとして使用できます。通常 AccessNow には HTML 5 WebSocket が必要ですが、AccessNow を Ericom Secure Gateway と同時に使用する場合にはその必要はありません。

AccessNow には以下の利点があります：

- HTML5 対応 Web ブラウザを備えたどんなデバイスからでも、エンドユーザが Windows デスクトップやアプリケーションにアクセス可能です。
- エンドポイントのデバイスにてソフトウェアのインストールや設定が不要です。
- エンドポイントのデバイスへのアップデートやパッチ適用が不要です。
- Web アプリケーションのみをサポートするプラットフォームで動作します (Google ChromeOS のようなアプリケーションのインストールが禁止されているプラットフォーム)
- HTML5 対応ブラウザを備えていれば、どのプラットフォームにおいても一貫性のある外観と操作感を提供します。
- リモートの Windows デスクトップやアプリケーションを、その他の Web ベースのアプリケーションやポータルにシームレスに統合可能です。
- バージョン 3.0 から、Access Server には Ericom WebConnect の Terminal Server コンポーネント (ロードバランサ・エージェント、リモート・ブラウザ、ターミナル・サーバ・エージェント)のパッケージが組み込まれています。

Ericom AccessNow はインストール可能な 3 つのコンポーネントにより構成されています。



- RDP ホスト上、または RDP ホストに並列してインストールされる Ericom Access Server (WebSocket サーバ)
- (オプション) Web サーバにインストールされる一群の Web リソース (HTML ファイル、CSS、JavaScript、画像など)
- (オプション) 社外からのアクセスを可能にする Ericom Secure Gateway

## RDP の圧縮とアクセラレーション

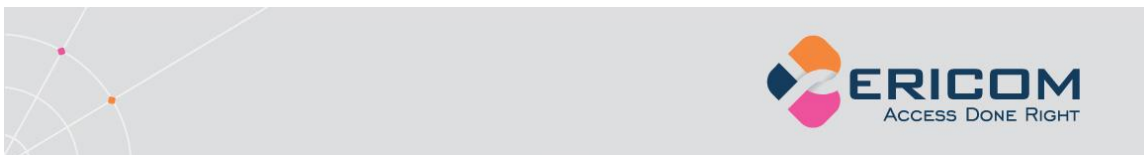
Ericom AccessNow には、RDP の圧縮とアクセラレーションを行う Ericom 社のテクノロジーが搭載されています。このテクノロジーにより、インターネット上でのリモート・デスクトップのパフォーマンスが向上します。このテクノロジーには 3 つの主要機能が備わっています。

- 画像圧縮
- パケット・シェーピング
- 全フレームのレンダリング

画像の圧縮は、ブラウザがレンダリングを行う前に画像を圧縮することを意味します。圧縮のレベルは、ユーザが選択したアクセラレーション/品質のレベルに左右されます。(デフォルトは管理者による設定が可能です)

パケット・シェーピングは、ネットワークの利用状況やパフォーマンスを向上するためにネットワーク メッセージを最適化します。

全フレームのレンダリングは、標準の RDP のようなブロック単位ではなく、全体として表示がアップデートされることを意味します。この点は、動画の視聴や、遅いネットワーク接続を使用する際に特に違いが現れます。その他の最適化機能を合わせて活用し、ローカルのデスクトップの機能性により近い、スムーズな表示を実現しています。

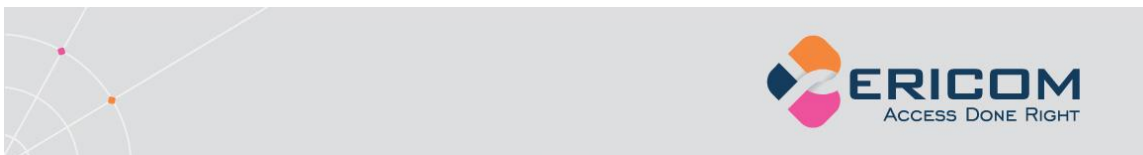


## 5 分で使用を開始する

Ericom AccessNow は高性能かつ柔軟性のあるアプリケーションです。このマニュアルでは、各環境で AccessNow を最適に設定できるよう、利用可能な機能を詳細に網羅されています。

AccessNow アプリケーションは短時間で簡単にインストールが可能です。基本的なインストールは約 5 分間で完了し、Google Chrome Web ブラウザ、Google Chromebook、Mozilla Firefox8, Apple Safari 5 Web ブラウザなどから、Windows RDP ホスト(サーバまたはワークステーション)にアクセスできるようになります。以下は AccessNow を約 5 分間でインストールし、使用するためのステップです。

- 1) Ericom web サイトから Ericom Access Server MSI インストーラをダウンロードします。(ダウンロード速度は各環境で異なるため、MSI をダウンロードする時間はこの 5 分間にはカウントされていません)
- 2) Access Server がインストールされるシステムにてポート番号 8080 が使用されていないことを確認します。このポート番号が使用されている場合は、既存のアプリケーションや Ericom AccessNow で別のポートを使用して競合を回避します。
- 3) MSI インストーラを実行し、すべてのダイアログ・ボックスで *Next* をクリックし、最後に *Finish* をクリックします。
- 4) AccessNow を使用するために、Windows ファイアウォール を設定(または無効化)します。
  - a. Windows コントロールパネルにて、Windows ファイアウォール / を開きます
  - b. 「Windows ファイアウォールを介した...」 をクリックします
  - c. 「別のアプリの許可...」 をクリックします
  - d. 参照 をクリックし、次に進む: <drive>:\ProgramFiles(x86)\Ericom Software\Ericom Access Server\AccessServer32.exe
  - e. 追加をクリックし、その後 OK をクリックします



- 5) Access Server のインストールが完了し、使用する準備が整いました。Access Server はビルトインの Web サーバを備え、次の URL からアクセスできます。

<http://マシンアドレス:8080/>

この URL は自動的に次のフル URL にリダイレクトされます。

<http://マシンアドレス:8080/accessnow/start.html>

Access Server サービスにビルトインされている Web サーバの使用をブラウザに指示するために、AccessNow ポートを URL で指定する必要があります。HTTPS の使用も可能です。

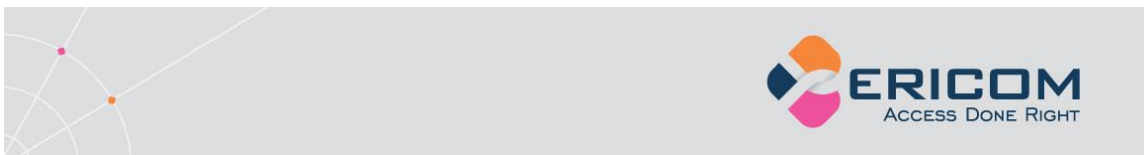
- 6) AccessNow Web ページが表示された後、接続ボタンをクリックし、Access Server がインストールされているデスクトップに接続します。空のフィールドには URL で指定されたサーバのアドレスが自動的に使用されます。希望する場合にはユーザ資格情報を入力すると、RDP セッションへ渡すことができます。

- 7) Access Server がインストールされている RDP ホストに Web ブラウザが接続されると、すぐに接続ダイアログが表示されます。

デスクトップの代わりにアプリケーションを起動するには、接続ボタンをクリックする前に 詳細 ボタンをクリックし、「接続時に次のプログラムを起動する」を選択します。プログラムのパスとファイル名で任意のアプリケーションへのパスを入力します。

<input checked="" type="checkbox"/> 接続時に次のプログラムを起動する
notepad
次のフォルダーで開始する

- 8) OK と 接続 をクリックすると、AccessNow を使用して 1 つのアプリケーションだけに接続が可能です。



## 2. ERICOM ACCESS SERVER

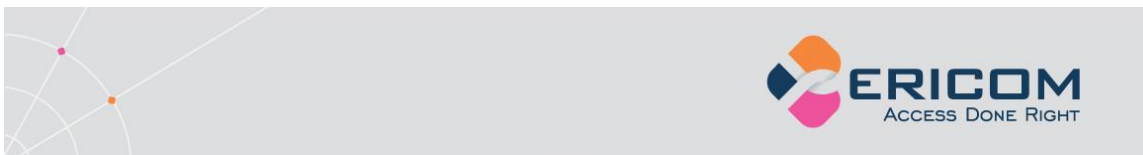
Ericom Access Server では AccessNow HTML5 アクセスと Blaze RDP 圧縮やアクセラレーションの機能が提供されています。試用期間中はすべての機能が利用可能となり、試用期間終了後はアクティベーション・キーを使用してロック解除することで各機能が利用可能になります。ホストには、Windows ターミナル・サーバや Windows ワークステーションなどの RDP アクセスが有効となっている Windows システムを使用できます。Access Server はカスタマイズ可能なポートを使用しており、ポート番号のデフォルトは 8080 となります。ポート 3399 は、古いバージョンの Blaze を使用してインストールされている場合に対応するために有効にされています。

**注意** Ericom Access Server 3.x は以前の Blaze のバージョン 2.x またはそれ以前のバージョンには対応していません。

Access Server は RDP ホストやプロキシとして機能する専用のシステムにインストールすることができます。Access Server を RDP ホスト自体にインストールすることをお勧めします。ファイル転送などの一部の機能は、Access Server が RDP ホスト自体にインストールされている場合においてのみ利用可能となります。Access Server は比較的軽快に動作するため、RDP ホストのパフォーマンスや拡張性への影響は最小限にとどまります。

### Ericom Access Server 要件

- Windows オペレーティング・システム
- ホスト OS にて受信用 RDP 接続が有効である(例: ターミナル・サーバ)
- ハードディスク上の 80MB の空き容量
- MMX および SSE2 対応 CPU
- Access Server による 8080 (または 3399)ポートのトラフィックが可能に設定されたファイアウォール



Access Server はアクセラレーションまたは HTML5 アクセスが必要とされる各サーバ/ホストにインストールする必要があります。すべてのユーザのセッションをアクセラレーションするために、1つのターミナル・サーバのインストールが必要です。各ワークステーションやデスクトップ(物理または仮想)にインストールが必要です。Microsoft® Sysprep または Symantec® Ghost を使用してデプロイされるイメージの一部として、Access Server を含むことが可能です。

## すべてのネットワーク・インターフェースに対するバインド・サービス

仮想ネットワーク環境において、1つの仮想 NIC のみを使用するのではなく、すべての仮想ネットワークのインターフェースを使用するために、Access Server をバインドすることをお勧めします。対象とするエンドユーザが、Access Server で使用するネットワークのインターフェースに常時アクセス可能であることを確認してください。

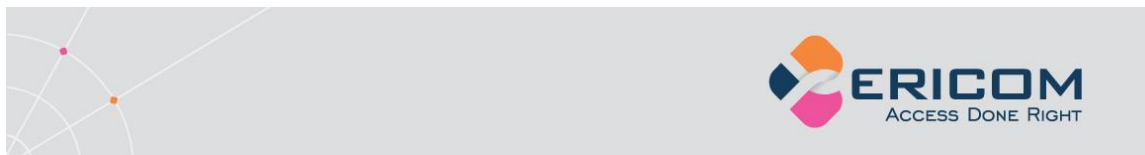
## ホストのファイアウォール設定

エンドユーザのデバイスから Ericom Access Server へのトラフィック通信を許可していることを確認してください。ファイアウォールの設定が必要となる場合があります。

Windows オペレーティング・システムでは、Windows ファイアウォールが Access Server ポート（デフォルトは 8080）を許可するよう設定されていることを確認してください。このポート値は Access Server Configuration ユーティリティを使用して変更することも可能です。

**注意** 接続の問題を解決するには、一時的に Windows ファイアウォール を無効にします。ファイアウォールを無効にした場合のみで接続が可能となる場合、Access Server が使用するポートをブロックするルールが存在している可能性があります。

Ericom が使用するポートを許可する規則を追加するには、以下の手順を行います。



- コントロールパネルに進み、Windows ファイアウォール に進みます。詳細設定 を選択し、受信の規則 を選択します。 新しい規則 をクリックします。

新規の受信の規則ウィザード

**規則の種類**  
作成するファイアウォールの規則の種類を選択してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

どの種類の規則を作成しますか?

☐ プログラム(P)  
プログラムの接続を制御する規則です。

☒ ポート(O)  
TCP または UDP ポートの接続を制御する規則です。

- ポート を選択し、次へ をクリックします。指定のポート 8080 を入力します。

すべてのローカル ポートと特定のローカル ポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択してください。

☐ すべてのローカル ポート(A)

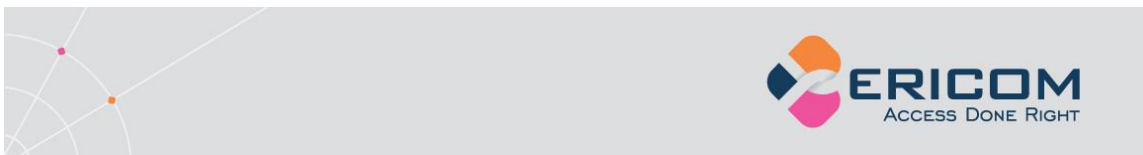
☒ 特定のローカル ポート(S): 8080,8081  
例: 80、443、5000-5010

- 次へ をクリックし、接続を許可する を選択します
- 次へ をクリックし、ルールを適用するネットワークを選択します（すべて選択）
- 次へ をクリックし、規則 に名称(Ericom)を設定した後、完了 をクリックします

## ポート転送の設定

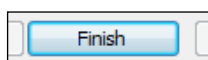
Blaze が有効となっているホストへのポート転送するためにファイアウォールを設定する際には、Access Server ポート（デフォルト：8080）へ転送されていることを確認してください。

カスタム・ポートが使用されている場合、Communication ページで設定されているポート値に転送するようファイアウォールを設定します。



## Eriocm Access Server のインストール

- *EricomAccessNowServer.msi* を実行し、インストール・ウィザードの指示に従います。
- License Agreement を確認し、同意します。
- *Install* をクリックします。(必要に応じて、セキュリティ権限を上げるリクエストを許可します)最後のスクリーンにて *Finish* をクリックし、インストールを完了します。



- Access Server ポートが利用可能であり、ホスト・システムにアクセスが可能なことを確認します。Access Server は自動的に必要な規則を Windows のファイアウォールに追加しますが、ネットワーク上でのファイアウォール設定の追加が必要になる場合があります。

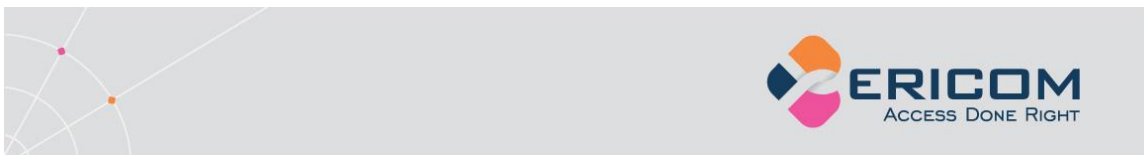


- インストールの後、Access Server はサービスとしてシステム上で実行されます。



- このサービスはシステム起動時に自動的に実行されるよう設定されています。
- サービスが停止しているか、またはデフォルトの WebSocket ポート(8080)を認識できない場合には、クライアントはホストに接続が





できません。他のアプリケーションが同じポート使用していないかを確認します。

- Windows XP では、Ericom Access Server をインストールした後、システムの再起動(リブート)が必要となる場合があります。

Access Server は、Microsoft System Center のようなアプリケーション管理ツールを使用した、自動的なサイレント・インストールも可能です。

- サイレント・インストールを実施するには、次を実行します: `msiexec /I "EricomAccessServer.msi" /q`
- **EricomAccessServer.msi** は .msi ファイルへの有効なパスを表しています。
- Windows Vista、7、8、Windows Server 2008 と 2012 では、このコマンドはより権限の高い管理者の資格情報が必要とされる場合があります。
- ヘルプ・ダイアログを表示するには、パラメータを指定せずに **MSIEXEC** を実行します。

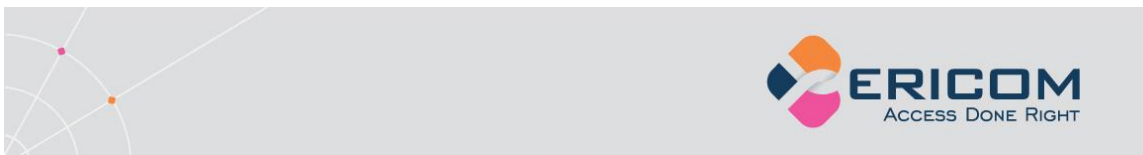
**注意** AccessNow Server はホスト名に英文字以外の文字が含まれるシステムにはインストールができません。

## Ericom Access Server の使用

Access Server の設定を変更するには: スタート | 全てのプログラム | *Ericom Software | Access Server Configuration* に進みます。スタートメニューのないシステムでは、以下のコマンドラインを使用して GUI を開始することができます。

`<drive>:\Program Files (x86)\Ericom Software\Ericom Access Server\ServerConfiguration.hta`

**注意** Access Server は AccessNow と Blaze 製品の両方で使用されます。



## Access Server の設定

Server Configuration コンソールは一連のタブを提供し、管理者がサーバ・サービスへの様々な設定を行うことが可能です。Configuration コンソールは Microsoft Internet Explorer 7 またはそれ以上のバージョンを持つシステム上に限り動作します。(このコンソールは IE6 がインストールされているシステムでは起動できません)

ヒント ターミナル・サーバに Access Server をインストールする際、エンドユーザによる予期しない変更を避けるために、エンドユーザ向けには Server Configuration アプリケーションを非表示にすることをお勧めします。

### General

このページは Access Server のサービスの再起動および停止の機能を提供します。一部の設定変更では、サービスの再起動が必要です。またこのページでは、システム上でアクティブな Ericom セッションの数が表示されます。

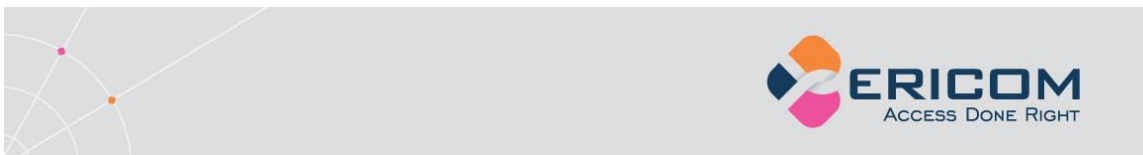
注意 Access Server のサービスが再起動される際、サーバ上のすべての AccessNow と Blaze のセッションの接続が解除されます。

Access Server service state:	Running
Access Server status:	Active
Number of sessions:	0
Started at:	09/23/13 08:40:00
<input type="button" value="Start Server"/>	
<input type="button" value="Stop Server"/>	

### Licensing Information

このページでは、AccessNow と Blaze のライセンス情報が表示されます。Connected to licensing server の項目には、現在使用されているライセンス・サーバが表示されます。

注意 本番環境の VDI やターミナル・サーバ環境では、ライセンス・サーバは強固なシステム上で一元管理される必要があります。詳細については、セントラル・サーバの設定のセクションを参照してください。



デフォルトでは、Access Server は DNS lookup を使用して Licensing Server を特定します。使用される DNS エントリは、*ericom-license-server.<domain-name>* または *\_ericom-license-server.\_tcp.<domain-name>* となります。DNS エントリが存在しない場合には、Access Server により同じコンピュータ上で実行されている ライセンス・サーバへの接続が試行されます。

その他の方法として、*Licensing server address* 内の *Access Server Configuration* で Licensing Server のアドレスを明示的に指定する方法があります。Licensing Server のアドレスを変更した後、General タブから Access Server サービスを再起動します。

有効なライセンスが見つからない場合、Access Server は猶予期間が終了するまで実行が可能となります。猶予期間の終了後、Access Server は、ユーザ・セッションを許可しなくなります。この「猶予期間」は 30 日間の期間内で最大 10 日間有効となります。

## ライセンス・サーバのポートを変更する

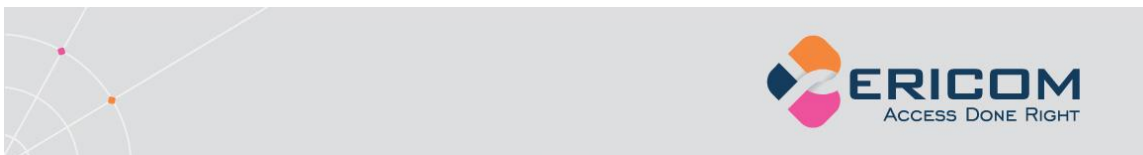
ライセンス・サーバは、デフォルトでポート 8888 を介して通信します。同一システム上の他のアプリケーションがポート 8888 を使用している場合には、ライセンス・サーバのポート値をレジストリで変更することができます。レジストリ エディターを使用して次に移動します。HKLM | SOFTWARE | Ericom Software | LicenseServer

文字列値を追加します。

### *Listening Port*



上記の例では、ポートが 9999 へと変更されています。値を設定した後、Ericom *Licensing Server* サービスを再起動します。カスタム・ポートを使用してセントラル・ライセンス・サーバに接続する各 Access Server において、アドレスの後ろにコロンを付けてポート値を指定する必要があります。例:



☐ Use DNS lookup  
☒ Licensing server address:

## ライセンスのアクティベーション

*Licensing* の下の *Activation* をクリックし、シリアル番号とアクティベーション・キーを製品の設定フィールドに入力します。評価版で使ったインストールのアクティベーションには、シリアル番号と「*key to send to Ericom*」の内容を記載し [supportusa@ericom.com](mailto:supportusa@ericom.com) へ送信し、処理を依頼します。その後、アクティベーション・キーが返信されます。そのアクティベーション・キーを入力した後、*Activate License* ボタンをクリックします。ライセンスを有効にするために Access Server を再起動する必要はありません。

評価期間を延長するには、Ericom の営業担当者に「*key to send to Ericom*」の内容を送信し、処理を依頼します。依頼が承認された後、標準的な 30 日間の延長キーが提供されます。

General Licensing Performance Communication Acceleration Security Logging Advanced

Information Activation

**License Description:**  
 License Status: Valid  
 License Type: Concurrent Users  
 Counting Mode: Permanent  
 Expiration Date: Never Expires  
 Number of Licenses: 10  
 Used Licenses: 0

If you have received a serial number from Ericom, please enter it into the field below before clicking the "Email to Ericom" button.

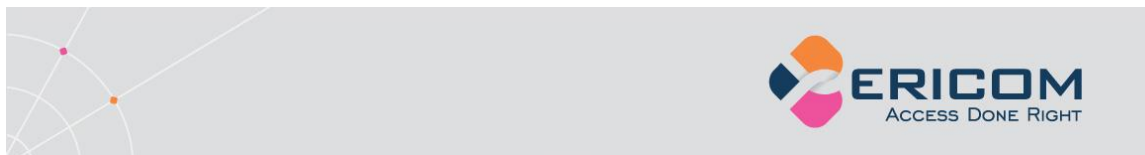
Serial Number:

Key to send to Ericom:

Key received from Ericom:

## Performance

このページには現在のサーバのパフォーマンス統計が表示されます。



General	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
---------	-----------	-------------	---------------	--------------	----------	---------	----------

**Server to Client communication**

Number of sessions: 0

Average compression ratio: 69 %

Total data received from host: 5 MB

Total data sent to client: 1 MB

Real-time cumulative performance information for all sessions since Blaze Server was started. Counters are reset when the Blaze Server service is restarted. Display is automatically updated approximately once every 10 seconds.

## Communication

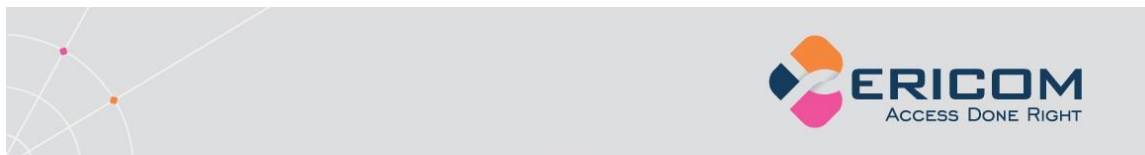
このページは、Access Server のリスニング・ポートと RDP を実行しているホストのアドレスを変更する機能を提供します。

デフォルト(8080)以外のリスニング・ポートを使用している場合、ポート番号を Access Server のアドレスまたは Blaze Client の Computer フィールドで明示的に指定する必要があります。(例: rdpdemo.ericom.com:22)

AccessNow web クライアント:

接続先のシステムが Access Server を実行していない場合、RDP ホストのアドレスが使用されます。この場合では、Access Server はエンドユーザと接続先ホストシステム間でゲートウェイのプロキシとして動作します。このタイプの設定により AccessNow と Blaze のパフォーマンスに悪影響が生じる場合があるため、お勧めしません。

両方の設定の変更には、サービスの再起動が必要です。(General タブから)



General	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
---------	-----------	-------------	---------------	--------------	----------	---------	----------

Access Server port number:

Changing this setting will take effect only after the Access Server service is restarted.

Specifies the TCP/IP port on which the Access Server service listens for incoming connections. Do not use a port number which is already in use by some other service or application on the computer. If you do, Access Server service will not start.

**Important:** Access Server Clients automatically connect to port 8080 when using accelerated RDP. If a different port value is selected, that value must be explicitly specified in the Clients' host address field.

---

RDP host address:

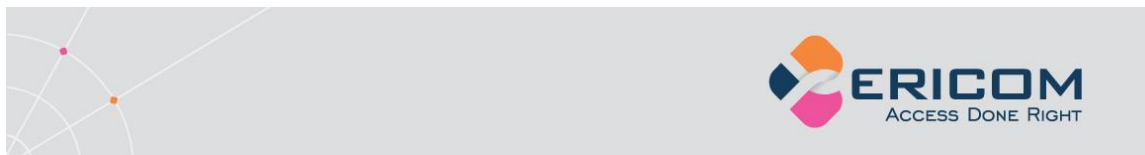
Changing this setting will take effect only after the Access Server service is restarted.

複数のネットワーク・カードを備えたマシンにて Access Server を実行している場合は、RDP ホストのアドレスを *localhost* から、システムに RDP アクセス可能なネットワーク・カードの IP アドレスまたは DNS アドレスへ変更します。

## Acceleration

このページはアクセラレーション/品質レベルを強制的に適用し、動的圧縮を無効にする機能を提供します。 *Override client acceleration / quality settings* チェックボックスがオンの場合、すべてのセッションで既存の設定が適用され、クライアントの設定は無視されます。この設定を選択、または未選択とする場合、変更を適用するためにサービスを再起動する必要があります。設定が有効にされている場合、アクセラレーション・レベルの変更にはサービスの再起動は必要ではありませんが、新たな設定を使用するにはアクティブ・ユーザの再接続が必要です。

*Dynamic Compression* はスクリーンの小さなグラフィカル・オブジェクト(ツールバーのアイコン、スタートメニューのアイコン等)を識別し、Blaze の Quality 設定が *Low* の場合には *High* のクオリティを使用し、Blaze の Quality 設定が *Low* より高くなっている場合には *Best* のクオリティを使用してオブジェクトを圧縮します。その他のグラフィカル・オブジェクトは選択された品質で圧縮されます。これにより、リモート・デスクトップのセッションでの高画質な画面表示を提供します。既定では、この機能は有効にされています。無効するには、「Use dynamic compression」ボックスをオフとします。



General	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
---------	-----------	-------------	---------------	--------------	----------	---------	----------

☐ Override client acceleration / quality settings

Acceleration / Quality: Very Fast / Good Quality (recommended) ▼

Enable in order to ignore the performance / image quality settings requested by the Ericom Access Server Clients. Instead, use the specified performance / image quality settings for all incoming accelerated connections.

---

☒ Use dynamic compression

Dynamic compression improves perceived display quality by utilizing lower compression settings for specific screen elements. Small but important screen elements, such as window titlebars and the Start Menu, use a higher quality setting, which is computed dynamically from the general image quality setting. Dynamic compression utilizes High quality when image quality is set to Low, and Best quality when the image quality setting is higher than Low.

Changing this setting may take effect only after the Access Server service is restarted.

## Security

このページでは Access Server のセキュリティ設定を構成します。

General	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
---------	-----------	-------------	---------------	--------------	----------	---------	----------

**Ericom Access Server supports strong SSL encryption**

Encrypt Access Server communication: Always  
Inherit from Microsoft RDP (default)

By default Ericom Access Server uses the same security settings as Microsoft RDP - if RDP is encrypted then Access Server will be encrypted. If RDP is not encrypted then Access Server will not be encrypted either. Set to **Always** for Ericom Access Server to always encrypt regardless of the RDP settings.

**Data transmitted from the clients to the server, including user credentials, is always encrypted regardless of Access Server and RDP security settings.**

For best performance and lowest load on the server set the RDP Security Level to Low (for 2003/XP also set the Security Layer to RDP Security Layer). This setting can be changed using the RDS (TS) Session Host Configuration or using Local Computer / Group Policies. After performing this change, modify setting above to **Always** if encryption is required.

**SSL Certificate**

**Friendly Name:**

**SAN:** DNS Name: [redacted]

**Thumbprint:** [redacted]

**Issued By:** [redacted] **Issued To:** [redacted]

**Valid From:** 2013/09/11 08:47:16 **Valid To:** 2014/09/11 08:47:16

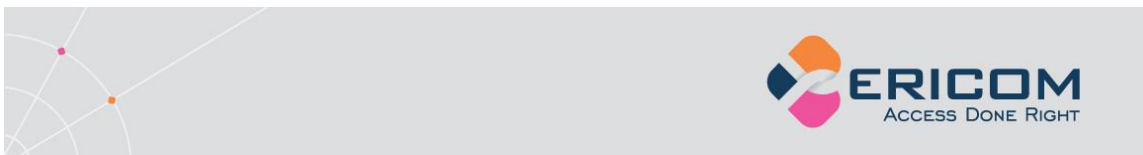
**Change Certificate**

To change the above certificate, enter a new certificate's thumbprint below (eg: [redacted]).

Certificate Thumbprint: <Default> Restore Default

Note: this change will only take effect after you click apply AND restart Access Server.

Ericom Access は統合された 128-bit SSL 暗号化を提供します。パフォーマンスを向上するには、ホストの RDP Security Encryption レベルを低に設定し、*Encrypt Blaze communication* を *Always* に変更します。この設定により、RDP 暗号化の代わりに Ericom SSL 暗号化が使用されます。詳細については、このドキュメントの「*Ericom Optimization*」の章を参照してください。



カスタムまたは信頼された証明書を使用するには、証明書の拇印を *Certificate Thumbprint* のフィールドに入力し、*Apply* ボタンをクリックします。上の画像で例示されている黒いボックスのように、GUI に証明書のプロパティが表示されます。変更点を適用するためにサービスを再起動します。

**注意** 信頼された証明書をインストールする際、Access Server の DNS アドレスが証明書の名前と一致する必要があります。ワイルドカード証明書を使用する場合、ドメインが一致する必要があります。例えば、証明書が *\*.acme.com* 用である場合は、サーバ名は *acme.com* で終わる必要があります。

## **Logging**

このページでは特定のログ機能を有効化/無効化する機能が提供されます。Ericom 社のサポートは、診断を目的としてデバッグのログを要求することがあります。デバッグのログはここで有効にすることができます。

## **Advanced (管理者用)**

このページは、システムのレジストリに保存されている高度な Ericom Server 設定へのアクセスを提供します。

*Export Setting* – AccessNow Server のレジストリ・キー をユーザのホーム・フォルダ (例: マイ ドキュメント) にエクスポートします。

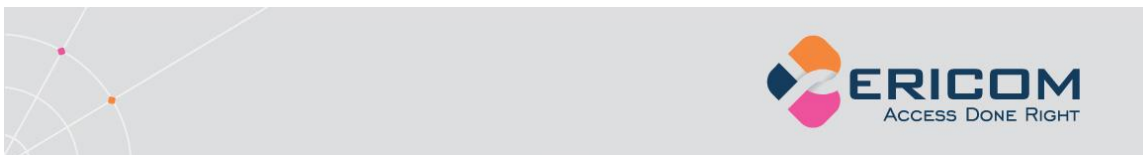
*Import Settings* – 以前保存した AccessNow Server のレジストリ設定をインポートします。

*Advanced Configuration* – regedit.exe を実行、Access Server のレジストリ・キーを開きます。デフォルトでは、デフォルトから変更された設定のみレジストリに保存されます。

## **ビルトインのログイン・スクリプト**

この製品には PtTSAgent が含まれています。PtTSAgent では、特定の RDP セッションのイベント間に .vbs スクリプトを実行する機能がサポートされています。この機能により、セッションの接続または接続解除時に特定のコマンドを実行する機能のレイヤーを追加することが可能です。





## 起動後のログイン・スクリプト (\_login)

`_login.vbs` という名前のファイルを作成し、PtTSAgent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは、TS/RDS セッションが スタートアップ・フォルダを処理した後に実行されます。

## 起動前のログイン・スクリプト(\_login)

`_login.vbs` という名前のファイルを作成し、PtTSAgent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは、TS/RDS セッションが スタートアップ・フォルダを処理する前に実行されます。

## 既存セッションへの接続用スクリプト(\_connect)

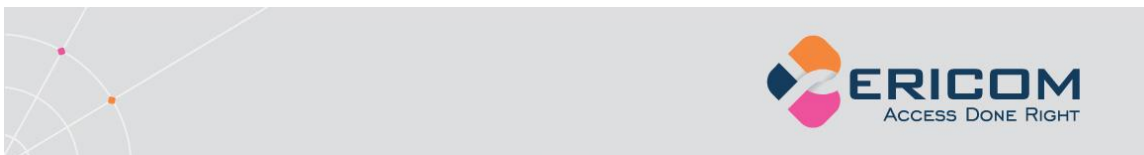
`_connect.vbs` という名前のファイルを作成し、PtTSAgent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは既存の TS/RDS セッションへの接続時に実行されます。

## セッションの接続解除用スクリプト (\_\_login)

`_disconnect.vbs` という名前のファイルを作成し、PtTSAgent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。このスクリプトは既存の TS/RDS セッションの接続解除時に実行されます。

## 接続用のログイン・スクリプト

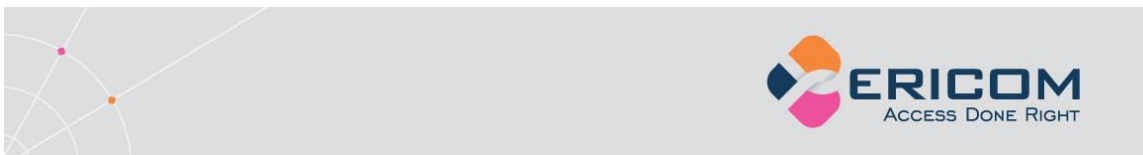
`<connection-name>.vbs` という名前のファイルを作成し、PtTSAgent がインストールされている `scripts` フォルダに保存します。このフォルダが見つからない場合には、フォルダを作成します。



例えば、*WordPad* という名前の接続が存在するとします。その場合、scripts フォルダに *wordpad.vbs* が存在するならば、接続が開始されるたびに、*wordpad.vbs* が実行されます。

## 新しいファイルを作成する VB スクリプトのサンプル

```
Set objFileToWrite =  
CreateObject("Scripting.FileSystemObject").OpenTextFile  
("newfile.txt",2,true)  
objFileToWrite.WriteLine("hello world")  
objFileToWrite.Close  
Set objFileToWrite = Nothing
```



## 3. ライセンスの概要

### 評価(デモ)期間

各 Access Server のインストールには、同一のデバイスにインストールされるライセンス・サーバが含まれています。デフォルトでは、ライセンス・サーバには 30 日間の検証期間が含まれています。この期間中、ライセンス・サーバは最大 50 の同時ユーザ接続を許可します。評価期間は、Ericom 営業担当に連絡し延長することが可能です。

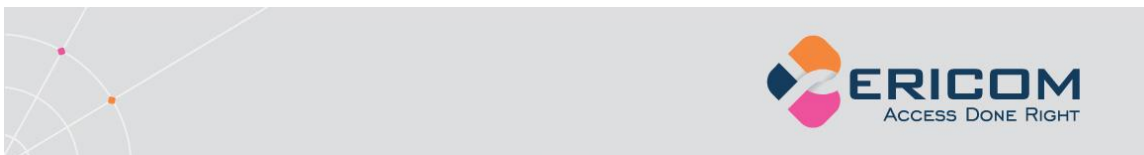
### ライセンス・モード

Ericom のライセンス・サーバのサービスは Ericom AccessNow と Blaze のライセンスを管理します。Ericom Blaze クライアントや AccessNow を使用したすべての接続に Ericom のライセンスが必要です。1 つのライセンス・サーバで複数の Access Server のライセンスを管理する事が可能です。

ライセンスには 2 つのモードがあります。

同時ユーザ: 同一のライセンス・サーバを使用するすべての Access Server へ同時に接続しているアクティブ・ユーザ数により、Ericom のライセンスがカウントされます。このライセンス・モードでは以下の点が考慮されます:

- 同一ユーザが 1 つのクライアント・デバイスで開く Ericom のセッション数に対し、ライセンスの限度は適用されません。ユーザが 1 つのデバイスで開くセッション数に関わりなく、ライセンスが 1 つだけ使用されます。
- 同一ユーザが複数のデバイスから複数のセッションを同時に使用する場合、デバイスの数と同じ数のライセンスが使用されます。
- 複数のユーザが同じデバイスを使用する場合((例: Mac のファスト・ユーザ・スイッチ の利用)、アクティブな Blaze セッションを使用するユーザと同じ数のライセンスが必要です。



指定ユーザ: 同一ライセンス・サーバを使用するいずれかの Access Server に接続したことの登録名の総数により、Ericom のライセンスがカウントされます。このライセンス・モードでは以下の点が考慮されます:

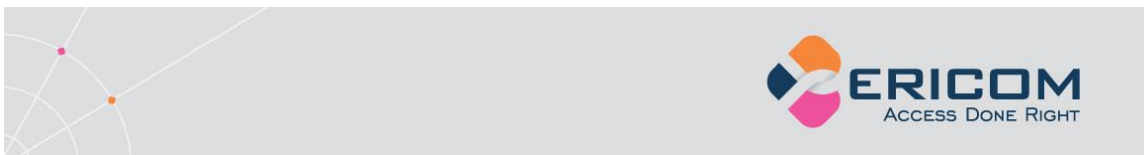
- ライセンスは、ユーザが初回に使用した任意の名前に割り当てられます。
- ユーザ名が 14 日間で一度も Blaze Client の実行に使用されなかった場合、ライセンスは自動的にリリースされます。その名前に割り当てられたライセンスは、14 日間の期間が経過する前にリリースすることはできません。
- Access Server を RDP ホストにインストールする必要があります。  
(PtTSAgent もこの方法を必要とするため) Access Server がゲートウェイとして使用されている場合、同時ユーザのライセンスのみが利用可能となります。

## セントラル・サーバの設定

Access Server では、リモート・ライセンス・サーバの使用を設定し、複数の Access Server でライセンス・プールを共有することが可能です。

例えば、10 ユーザのライセンスがセントラル・サーバでアクティベートされたとします。この場合、ネットワーク上のすべての Access Server はセントラル・サーバ上のライセンス・プールを使用するようになります。混乱や障害を避けるため、2 つ以上の RDP ホスト(リモート・デスクトップ・サービス、ターミナル・サーバ、VDI 等)が存在する環境では、ライセンスのホストを担当する専用のサーバを設置することをお勧めします。セントラルのライセンス・サーバを使用する際のガイドラインは以下のとおりです:

- ライセンスの配布を可能にするため、セントラル・ライセンス・サーバは高可用性サーバにホストする必要があります。
- VDI 環境では、クローンのデスクトップまたはゴールド・イメージのテンプレートにライセンス・サーバをインストールしないでください。ライセンス・サーバはシステム変更が発生しない静的なマシンにインストールする必要があります。



- 2つ以上のサーバの存在する TS/RDS 環境では、可能な場合はターミナル・サーバへのライセンス・サーバのインストールを避けてください。
- サーバの再起動や中断を最小限に抑えます。オフピーク時にアップ デートを適用してください。

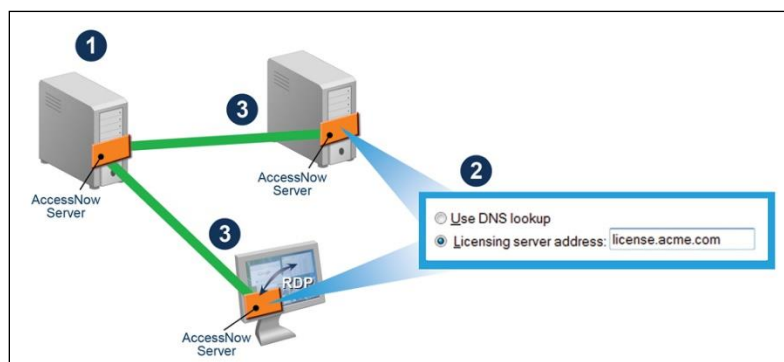
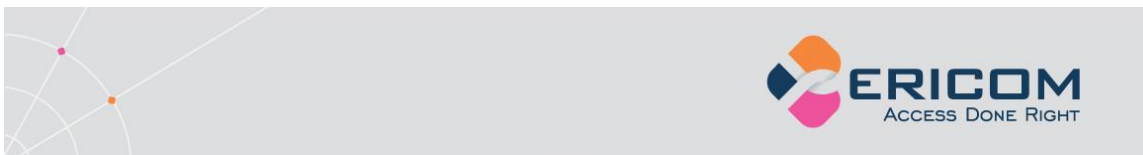
有効なライセンスが見つからない場合、Access Server は猶予期間が期限切れとなっていなければ実行を続けることが可能となります。猶予期間の終了後、Access Server は、ユーザ・セッションを許可しなくなります。この「猶予期間」は 30 日間の期間内で最大 10 日間有効となります。ライセンス・サーバにて問題が生じた場合には、猶予期間が終了する前に解決する必要があります。

## 実装

ステップ 1: 任意のシステム上に Access Server をインストールし、アクティベートします。( [Licensing / Activation](#) タブを使用) Access Server が実行されますが、このインストールの主な目的は、セントラル・ライセンス・サーバを作成することです。システムの Windows ファイアウォールで受信用ポート 8888 を有効にします。セントラル・ライセンス・サーバとそのサーバに接続するすべての Access Server 間のネットワークでこのポートが利用可能であることを確認します。

ステップ 2: ライセンス用にセントラル・ライセンス・サーバのアドレスを使用するようすべての Access Server を設定します。セントラル・ライセンス・サーバのアドレスを設定するには 2 つの方法があります。詳細は次のセクションを参照してください。

ステップ 3: Access Server のサービス起動後、Ericom AccessNow または Blaze のセッションが確立されます。その際、事前設定された セントラル・ライセンス・サーバに接続します、ライセンスを取得します。



セントラル・ライセンス・サーバを使用するには 3 つの方法があります。

## **DNS Lookup を使用する**

### **Use DNS lookup**

この設定を使用する場合、Access Server は一緒にインストールされているローカルのライセンス・サーバを使用する前に、セントラル・ライセンス・サーバを発見することを常に試みます。セントラル・ライセンス・サーバが発見され使用されると、ローカルのライセンス・サーバは無視されます。Ericom Access Server サービスが起動する際、以下の手順でセントラル・ライセンス・サーバのアドレス(IP または DNS 名)を検索します。

#### **1) DNS-SRV エントリ**

Access Server は 次の DNS-SRV エントリでライセンス・サーバのアドレスを検索します: `_ericom-license-server._tcp.<domain>`

例: `_ericom-license-server._tcp.ericom.local`

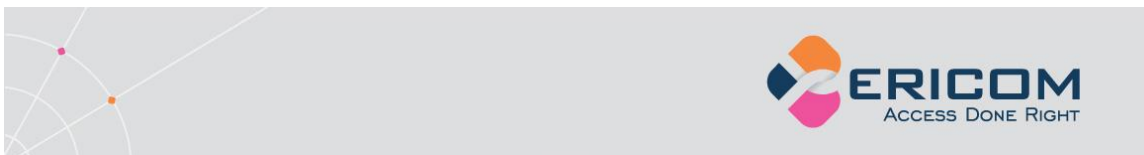
#### **2) DNS エントリ**

DNS-SRV レコードが存在しない場合、Access Server は、次の DNS エントリでライセンス・サーバのアドレスを検索します: `ericom-license-server.<domain>`

例: `ericom-license-server.ericom.local`

#### **3) ローカルホスト**

DNS エントリが存在しない場合、ローカルにインストールされたライセンス・サーバが使用されます。(例: `localhost` がライセンス・サーバとして使用されます)



## **手動登録**

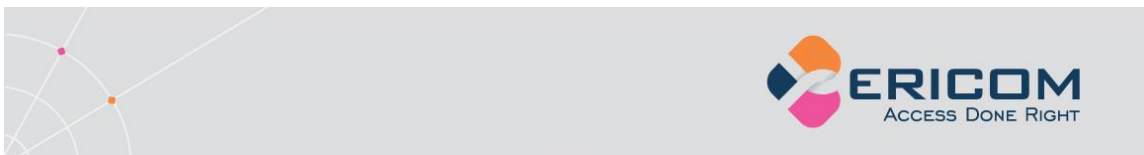
Licensing server address

管理者は、Access Server 設定アプリケーションの Licensing ページから、使用されるライセンス・サーバを明示的に指定することも可能です。

⦿ Licensing server address: 192.168.1.1

## **PowerTerm WebConnect との使用**

Ericom PowerTerm WebConnect ブローカーを使用している場合には、すべてのライセンスはブローカーから取得されます。Access Server によるライセンスは無視され、有効期限切れのメッセージはブローカーを介した接続には適用されません。



## 4. ACCESSNow WEB クライアント

Web コンポーネントには、web ブラウザに使用されるリソースが含まれます。このリソースは、リモート・アプリケーションやデスクトップに接続する際にユーザ・インターフェースの表示に使用されます。リソースには、HTML ページ、JavaScript、CSS ファイルおよび画像が含まれています。web コンポーネントの外観や動作を変更するには、高度な設定の章を参照してください。

### AccessNow Web クライアント・コンポーネントをインストールする

#### Access Server に含まれているもの

AccessNow の web コンポーネントは Access Server(Windows 版)と一緒に自動的にインストールされます。web コンポーネントは以下のような Access Server フォルダ内にあります:

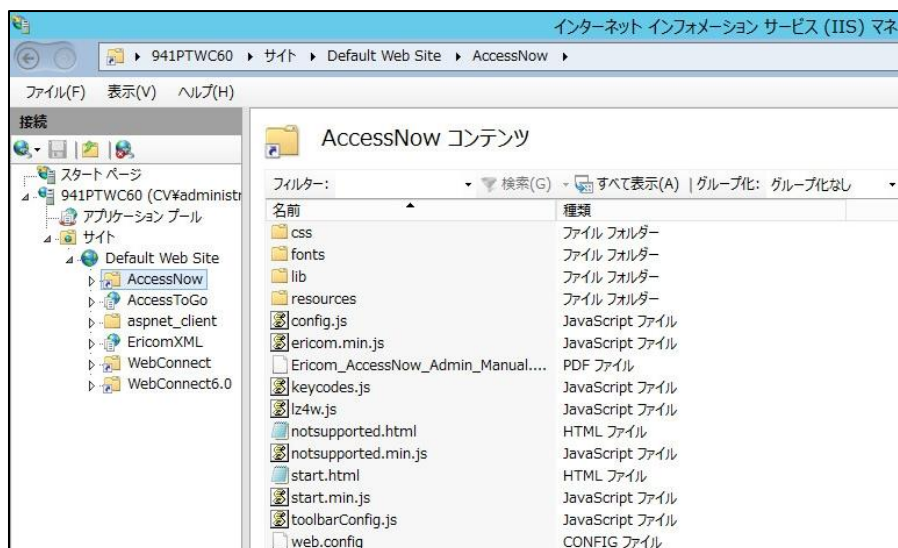
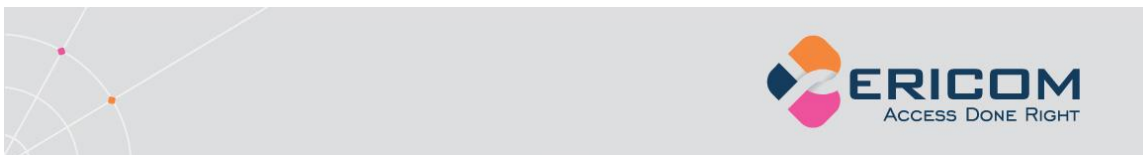
**<drive letter>:\Program Files\Ericom Software\Ericom Access Server\WebServer\AccessNow**

#### Microsoft IIS web サーバへのインストール

IIS サーバ用の web コンポーネントは、次の名前のインストーラとして提供されます。

**EricomAccessNowWebComponent.msi** インストール中、AccessNow という名前の仮想ディレクトリが IIS 内に自動的に作成されます。Start.html ページが仮想ディレクトリのデフォルトのドキュメントとして設定されるため、URL にファイル名を明示的に入力する必要はありません。実際のページは次の場所に配置されます: C:\Program Files (x86)\Ericom Software\Ericom AccessNow Web Component\





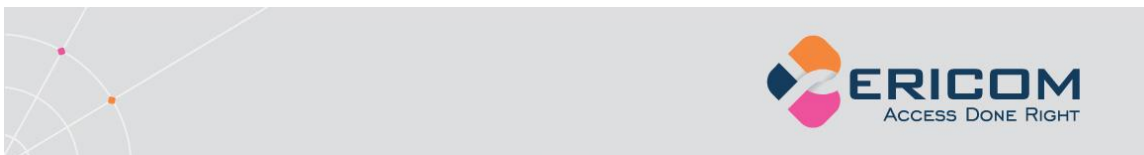
web サーバのファイルがインストールされた後、ユーザを次のような適切な URL に誘導します: <http://webserver/accessnow> または <http://webserver/accessnow/start.html>

## Web サーバへのインストール

web サーバ・コンポーネントは 次の名前の zip ファイルでも提供されています:

### ***EricomAccessNowWebComponent.zip***

ターゲットとなる web サーバ上で仮想ディレクトリを作成し、zip ファイルのコンテンツをそのロケーションに展開します。Web サーバのファイルをインストールした後、ユーザを適切な URL へ誘導します。(例: <http://webserver/accessnow/start.html>) 一部の web サーバでは大文字と小文字が区別されるため、正しい URL をユーザへ提供していることを確認してください。



## 5. HTML5 ユーザ アクセス

Ericom AccessNow を使用して、HTML5 に対応する Web ブラウザからリモートの Windows デスクトップやアプリケーションにアクセスできます。セッションを開始するには、AccessNow 仮想ディレクトリにインストールされている *start.html* ファイルを参照します。この仮想ディレクトリは Access Server の各インストールに含まれ、サードパーティの web サーバに個別にインストールすることもできます。

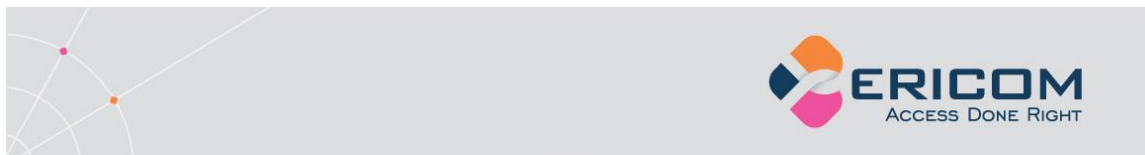
### サポートされているブラウザ

以下のブラウザがサポートされています: Google Chrome (Windows、Android、ChromeOS)、Apple Safari (iOS、Mac OS X(10.8 以降))、Mozilla Firefox (Windows) の最新バージョンと 1 つ前のバージョンのみサポートします。また Microsoft IE10、IE11、Edge (Windows) もサポートしています。

複数の AccessNow セッションを同じ web ブラウザ内の別のタブまたは別ブラウザ・ウィンドウで開くことができます。セッションが使用中でない(タブやウィンドウが表示されていない)時は、CPU とメモリの使用率が軽減されます。

### AccessNow ログイン・ページ

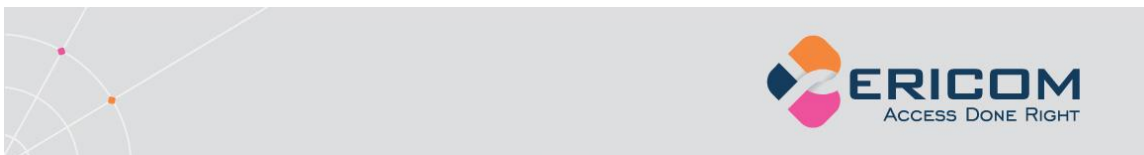
ユーザが AccessNow URL に移動すると、ログイン・フォームが表示されます。



ユーザはターゲットの RDP ホストの接続パラメータを入力して、接続 ボタンを押して接続を開始します。

## メイン・ページのコンポーネント

機能	説明
Ericom AccessNow サーバ	<p>Access Server のアドレス(ホスト名または IP アドレス)。指定していない場合、ブラウザのアドレス・フィールドに表示されている web サーバのホスト・アドレスが使用されます。</p> <p>デフォルト以外のポートで接続している場合、コロンとポート番号を追加して指定する必要があります。例えば、192.168.1.1:8585 のようになります。デフォルトのポートは、<i>config.js</i> 内の <i>wsport</i> 値で定義されています。</p>
ユーザ名	<p>RDP ホストにログインするためのユーザの資格情報。オプションとしてドメインの詳細を含む事も可能です。(例: domain\user.)</p> <p>Ericom Secure Gateway を使用する場合、このフィールドは必須です。それ以外の場合このフィールドはオプションです。指</p>

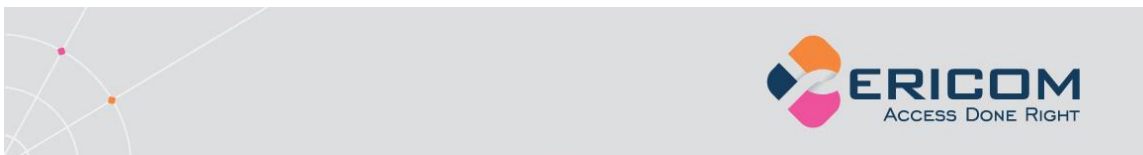


	定されない場合、ユーザは RDP ホストにより資格情報が要求されます。
パスワード	<p>ユーザ名に対応するパスワード。セキュリティ上の理由から、この値を今後の接続のために保存することはできません。</p> <p>Ericom Secure Gateway を使用する場合、このフィールドは必須です。それ以外の場合このフィールドはオプションです。指定されない場合、ユーザは RDP ホストにより資格情報が要求されます。</p>
パスワードを記憶	この設定をオンにすると、現在のセッションのために入力されたパスワードが次のセッションのために保存されます。この設定がオフの場合、現在のセッションで使用されているパスワードは次のセッションのために保存されません。
接続 ボタン	入力されたパラメータを使用して接続を開始。接続 ボタンをクリックすると、すべての設定が今後のセッションのために保存されます。
設定 ボタン	セッションの各種設定を構成するには 設定 ボタンを押します。
言語 ボタン	Start ページのテキストに使用される言語を変更します。
概要情報 ボタン	AccessNow クライアントのバージョン番号を表示します。

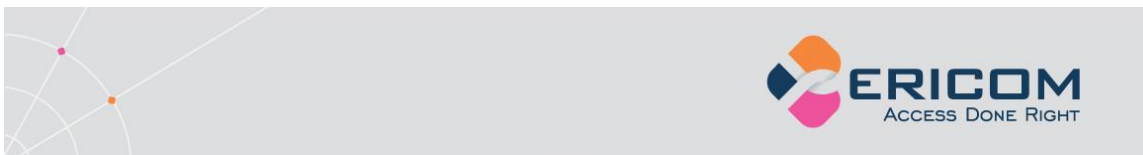
## 設定



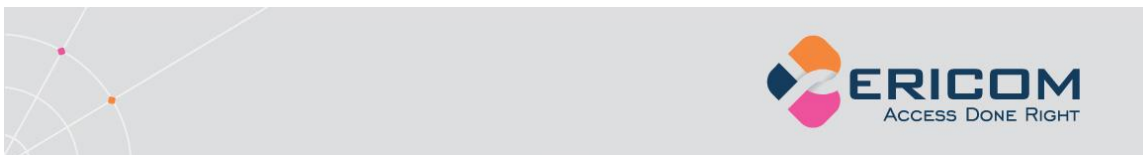
機能	説明
セクション 1	
RDP ホスト	RDP が有効にされている接続先システムのアドレス。 Access



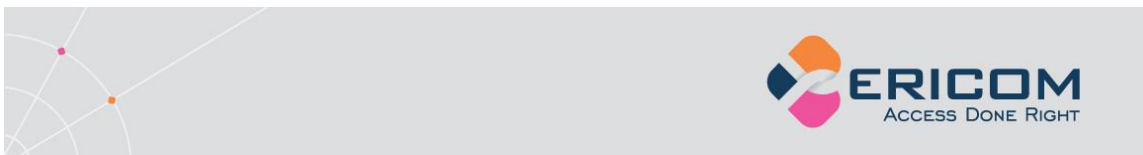
	Server が RDP ホスト自体にインストールされている場合、このフィールドは空白のままにします。
ドメイン	ユーザ名で指定されていない場合のユーザのドメイン。
リモートセッションの SSL 暗号化を有効	オンの場合、クライアントは Access Server に対して、SSL 暗号化された WebSocket 通信を使用します。
Ericom Secure Gateway の使用	RDP ホストへの接続に Ericom Secure Gateway を使用する場合に選択します。
ゲートウェイ・アドレス	<p>このフィールドに Ericom Secure Gateway のアドレスとポートを入力します。カスタム・ポートを指定するには、「:」とポート番号を追加します。(例: gateway.com:4343)ポート値が指定されていない場合、デフォルトの 443 が使用されます。</p> <p>フェールオーバーに備えて、複数の ESG を指定することができます。それぞれのアドレスをカンマ (,)またはセミコロン (;) で区切ります。アスタリスク (*)はそれ以降のアイテムをシャッフルします。例えば、次のように指定した場合: aaa;*;bbb:4433;ccc:4343</p> <p>ポート 443 の ESG aaa が最初の接続に使用されます。aaa が利用できない場合、bbb:4433 を使用し、その後 ccc:4343 または ccc:4343 と続きます。</p>
圧縮とアクセラレーション	オンの場合、セッションでの品質低減のある画像圧縮を有効にします。品質低減/アクセラレーションの度合いはドロップ・ダウン・リストを使用して指定できます。
セクション 2	
アクセラレーション /品質	セッションで有効にされているアクセラレーションの度合いをコントロールします。アクセラレーションの度合いを高めると、画質が低下します。



画面解像度	<p>セッションでの仮想デスクトップのサイズ。リモート・デスクトップがブラウザのウィンドウより大きい場合、スクロールバーが表示され、ブラウザのウィンドウのサイズは変更されません。</p> <p>「fit to browser window」(規定)を選択し、現在のブラウザのウィンドウのサイズを使用します。「fit to screen」を選択すると、ローカルの画面全体をカバーするセッションを作成し、ブラウザの全画面モードによりローカルの画面全体がカバーされることを有効にします。</p>
リモートオーディオ再生	<p>セッションのサウンドを再生する場所の設定: ローカル・コンピュータ、リモート・コンピュータ、再生なし。</p> <p>IE 10 と 11 ではオーディオ再生はサポートされていません。</p> <p>AccessNow 3.3 またはそれ以上ではパフォーマンス向上のための音声圧縮をサポートしています。</p>
キーボードのロケール	AccessNow セッションで使用されるキーボードのキーボード・レイアウトを選択する。(keyboard_locale)
キーボードスキャンコードを使用する	<p>スキャン・コードを有効にする。一部のアプリケーションはスキャン・コードを使用するため、この設定の有効化が必要になります。</p>
セクション 3	



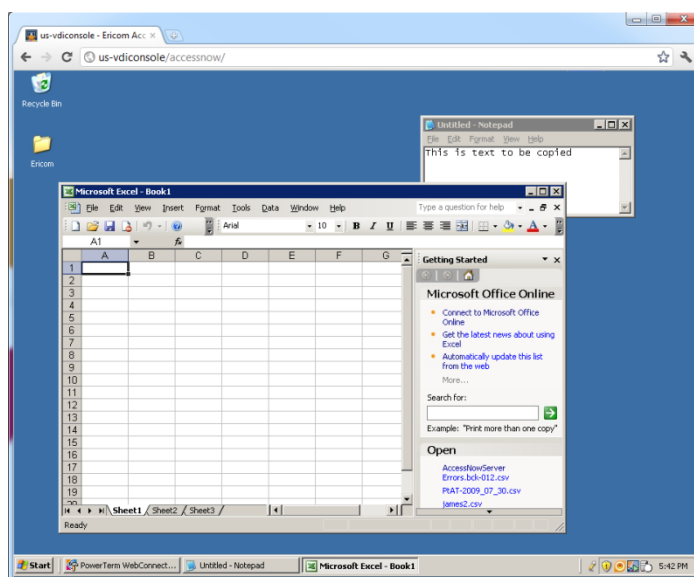
自動セッションのサイズ変更	<p>この設定はデフォルトで有効にされ、ブラウザのウィンドウ・サイズの変更に従って、アプリケーションまたはデスクトップの表示サイズを変更します。全画面モードをサポートしています。</p> <p>注意: 自動的なセッションのリサイズは、「画面解像度」が「ブラウザウィンドウに合わせる」に設定されている場合のみ有効です。</p>
クライアントのタイムゾーンを使用する	このボックスをオンにすると、ローカルのタイム・ゾーンのリダイレクトが有効にされます。(リモート・セッションではユーザの「ローカル」システムの時間が使用されます)
コンソールに接続する	リモート・システムのコンソール・セッションへ接続します。
接続時に次のプログラムを起動する	RDP ホストと接続する際に特定のアプリケーションのみを開始する際に選択します。リモート・デスクトップは表示されません。
プログラムのパスとファイル名	希望のアプリケーションを開始するための完全なパス。アプリケーションのみが表示され、デスクトップのアクセスは無効にされます。「接続時に次のプログラムを起動する」を有効にすることが必要です。
次のフォルダーで開始する	「接続時に次のプログラムを起動する」で指定するアプリケーション用の「開始」フォルダを指定します。
クライアントのブラウザのリンクを開く (URL リダイレクト)	ローカルのブラウザを使用して、RDP セッションで開始した URL のリンクを開きます。



## デスクトップと接続する

AccessNow のデフォルトの設定では、*start.html* ページに入力されたパラメータを基に、デスクトップのセッションヘンドユーザを接続します。詳細 ボタンの接続時に次のプログラムを起動するがオフとなっている限り、接続 ボタンはデスクトップのセッションを開始します。

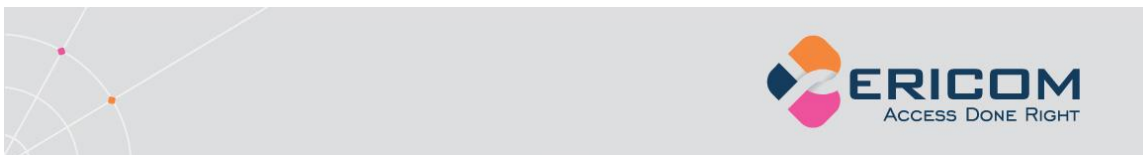
ログインが成功すると、特定のデスクトップに接続されます。リモート/仮想デスクトップのコンテンツはブラウザのウィンドウ内に表示されます。



セッションを**切断**するには、ブラウザのタブを閉じます。セッションを**ログオフ**するには、Windows のスタート メニューのログオフ機能を用います。

ユーザが起動中のアプリケーションを閉じた場合(アプリケーションの「X」ボタンを押す事で)、ログオフのセッションは無反応となり、3 秒間スクリーン上で何もアクティビティがない場合、TSAgent は自動的にセッションを終了します。





## アプリケーションに接続する

アプリケーションが有効にされ、接続時に次のプログラムを起動するで設定されている場合、セッションが接続された後そのアプリケーションのみがセッション・エリア全体をカバーして表示されます。リモート・デスクトップは表示されません。

<input checked="" type="checkbox"/> 接続時に次のプログラムを起動する
excel
次のフォルダーで開始する

Windows 2008/2012 ターミナル・サービスとリモート・デスクトップ・サービスでは、許可されたアプリケーションを RemoteApps 許可リストへ追加してください。

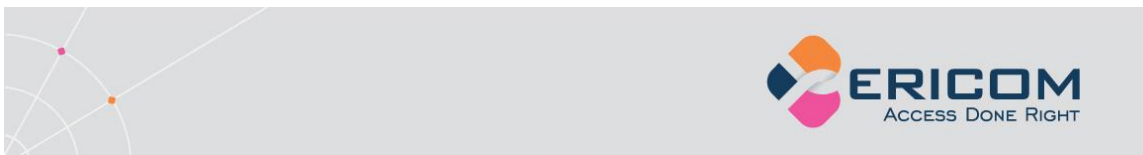
RemoteApp プログラム	
名前	RemoteApp プログラムの追加(D)
RD Web アクセスに表示する(S)	無効
RD Web アクセスに表示しない(V)	制限なし
rdp ファイルの作成(C)	制限なし
Windows インストーラー パッケージの作成(W)	制限なし

リモート・アプリケーションはターミナル・サービスに接続している場合にのみ動作します。Windows ワークステーション・オペレーティング・システム(例: Windows 7)に接続している場合は、この機能はマイクロソフトによりブロックされています。

**注意** AccessNow を使用してアプリケーションを開始する場合、Ericom AccessNow のインストールの前に Windows 2008/2012 上で RDS RemoteApps の役割が有効にされている必要があります(有効にすることを強くお勧めします)。

アプリケーションは `config.js` ファイルの `alternate_shell` 値を使用して定義することもできます。この例では、Internet Explorer を URL(<http://www.ericom.com>)をパラメータとしてキオスクモード(-k)で開始します。

```
alternate_shell: "C:\\Program Files\\Internet Explorer\\iexplore.exe" -k
http://www.ericom.com,
```



## キオスク・モードでアプリケーションに接続する

アプリケーションはモニタ全体をカバーするキオスク・モードで表示することができます。(マルチモニタ構成の場合、プライマリ・モニタのみがカバーされます) AccessNow と Google Chrome を使用してキオスク・モードのアプリケーションを作成するには、以下を実行します:

- 1) アプリケーションを「全画面」モードで開始するよう AccessNow を設定します。

`config.js` ファイルを編集します。コメントを解除し、以下のパラメータを変更します。

```
autostart: true, // sets the session to auto start
address: "rdphost_address" // sets the address of the RDP host
remoteapplicationmode: true, // sets the session to use application mode
alternate_shell:
"C:\\Program Files\\Ericom Software\\My App.exe", // sets the application path
```

その他のパラメータも任意の値へ変更できます。

- 2) Chrome ブラウザ (chrome.exe)へのショートカットを作成します。AccessNow への URL を使用して chrome.exe をキオスク・モードで開始するためにショートカットのプロパティを変更します。

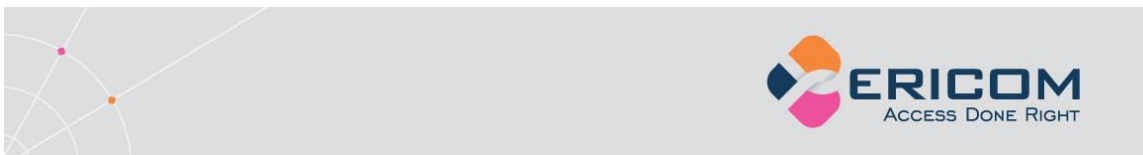
chrome.exe -kiosk <http://accessnowserver/accessnow/start.html>

ショートカットをシステムの *Startup* フォルダに配置し、システムを起動するごとに開始することができます。

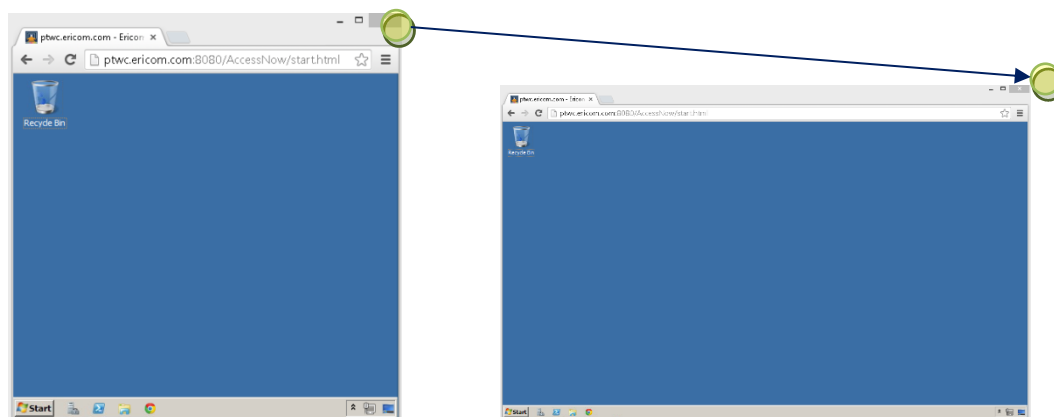
## ディスプレイの自動サイズ調整

AccessNow はディスプレイの自動サイズ調整をサポートします。この設定はデフォルトで有効にされ、AccessNow *start.html* の詳細 ダイアログで設定されています。

☒ 自動セッションのサイズ変更



ブラウザのサイズが変更された場合、AccessNow のセッションは新たなサイズに応じて自動的に調整を行います。ブラウザのウィンドウのサイズを調整するには、ブラウザのウィンドウの角をドラッグして、目的のサイズになった時にマウスを離します。ブラウザが全画面モードとなっている場合、AccessNow セッションは自動的に全画面で表示されます。

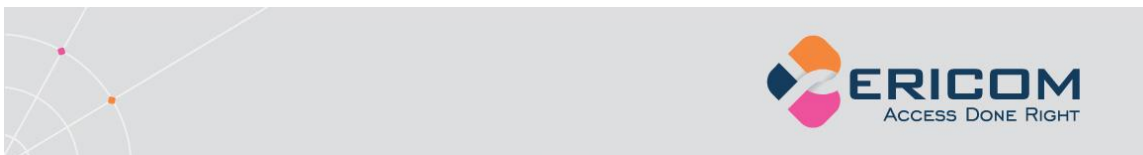


**注意** 次のレジストリ・キーはサイズ調整機能に影響を与えます。  
*HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server\WinStations\RDP-Tcp\MaxDisconnectionTime*. このキーの値が 1 から 10000 ミリ秒の間の場合、AccessNow によるサイズ調整は行われません。

セッションのサイズの調整後、AccessNow の印刷機能が数秒ほど利用できない場合があります。(Windows 2008 R2 で確認済み)

## 特殊キーの処理

接続中、AccessNow によりマウスのボタンとキーボードのイベントが読み取られ、それらが RDP ホストへ転送されます。その結果、ブラウザで処理されるキーボードとマウスのボタンのいくつかは、通常と異なる動作をします。例えば、F5 ボタンをクリックすると、通常はブラウザの現在のページがリロードされます。AccessNow を使用する場合、F5 はページをリロードしません。その代わりに、リモートのアプリケーションやデスクトップに転送されます。Windows のスタート キーなど、その他のファンクション・キーは AccessNow セッションに転送される事なく、ローカルのシステムで処理されます。



戻る、進む、リロードなどのブラウザのボタンをクリックすると、現在ページから移動するかどうかを確認するメッセージが AccessNow により表示されます。続行することを選択した場合、リモート・セッションは RDP セッションから切断されます(ログオフではありません)。

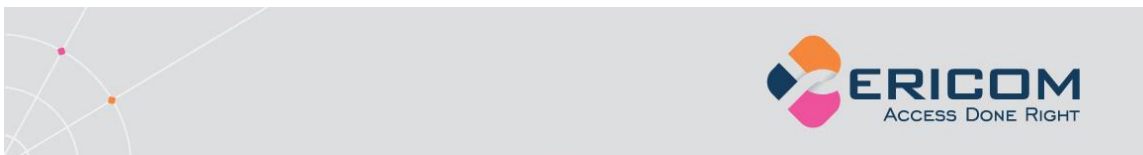
## サポートされている RDP のショートカット・キー

AccessNow はほとんどの RDP ホットキーの組み合わせもサポートしています。

[http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa383500\(v=vs.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa383500(v=vs.85).aspx)

ただし、ALT+DEL と CTRL+ALT+マイナス (-)はサポートされていません。

キーの組み合わせ	説明	サポートされているモード
ALT+PAGE UP	プログラムを左から右へ切り替える。	リモート・デスクトップのセッションのみ
ALT+PAGE DOWN	プログラムを右から左へ切り替える。	リモート・デスクトップのセッションのみ
ALT+INSERT	起動した順番にプログラムを切り替える。	リモート・デスクトップのセッションのみ
ALT+HOME	<b>スタート</b> メニューを表示する。	リモート・デスクトップのセッションのみ
CTRL+ALT+END	Windows セキュリティ・ダイアログ・ボックスを表示する。ローカル・システムの CTRL+ALT+DEL と同様。	リモート・デスクトップのセッションとアプリケーション起動モード
CTRL+ALT+PLUS	セッション画面全体のスクリーンショットを作成します。	リモート・デスクトップのセッションとアプリケーション起動モード



		ド
--	--	---

## AccessNow ツールバー

Ericom AccessNow は、ビルトインの機能を利用するためにタッチで簡単に操作できるツールバーを提供します。



機能をタップまたはクリックするとオレンジのバーが展開し、ファイル転送やクリップボードなど、よく使用する機能にアクセスできます。

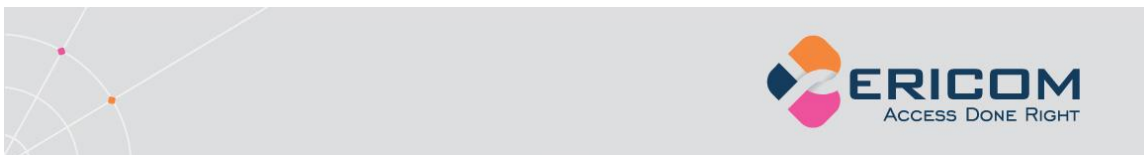
ブルーのバーをタップして展開すると、システム キーや切断機能などの追加機能へアクセスできます。



## システム キー

ブルーのバーは、タブレットや軽量キーボードから入力できない場合があるキーへのアクセスを可能にします。以下の機能がサポートされています:

- ESC
- TAB
- Windows キー
- CTRL+ALT+DEL
- ALT+TAB (アイコンがハイライトされた状態でもう一度タップすると、アクティブ・ウィンドウが順番に表示され、タップすると選択したウィンドウへフォーカスが移動します)



**注意** ファンクション・ボタンを押し続けても、繰り返しは行われません。キーの組み合わせの一部、例えば実行ダイアログを開くための Windows+R などは、現在サポートされていません。これらは今後のバージョンで追加される可能性があります。

## クリップボードのサポート

Ericom AccessNow は、ビルトインのクリップボードを使用してローカルのデバイスとリモート RDP セッション間のテキストをコピー&ペーストとする機能を備えています。

現在のバージョンでは、このクリップボードのリダイレクト機能はテキスト・コンテンツのみに限られています。

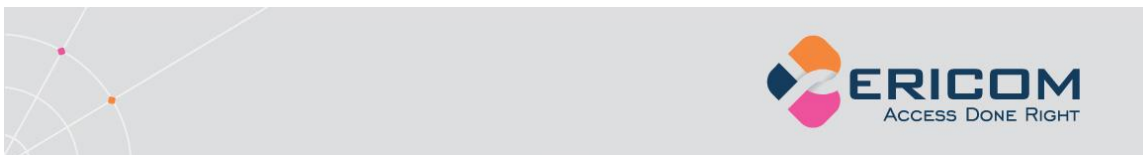
**注意** *Internet Explorer (MSIE) 9、10、11* または Chrome を使用する場合、クリップボード機能が統合されているため、AccessNow のクリップボード・アイコンは表示されません。通常のコピー/ペーストのコマンド(例: CTRL+C と CTRL+V)を使用して、ローカル・デバイスと AccessNow セッション間でテキストをコピー&ペーストすることが可能です。

## リモートのテキストをローカルにコピーする

AccessNow リモート・セッションからローカルのデスクトップにテキストをコピーするための手順:

- 1) リモート・セッションで、任意のテキストのコピー作業(例: CTRL-C)を行います。
- 2) Microsoft Internet Explorer および Flash が有効にされているその他のブラウザでは、テキストは自動的にクリップボードのバッファにコピーされます。

それ以外のブラウザでは、ハイライトされたテキストが自動的に入力された状態で以下のダイアログが表示されます。



テキストをクリップボードのバッファにコピーするには、CTRL+C を押します。

- 3) ローカルのクリップボードにデータがコピーされた後、テキストをローカル・アプリケーションにペーストするためのペースト作業(例:CTRL-V)を行います。

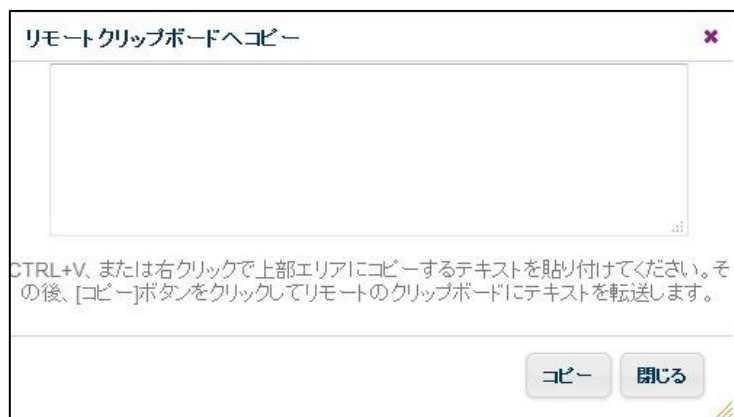
## ローカルのテキストをリモートにコピーする

ローカルのデスクトップからリモートの AccessNow セッションにテキストをコピーするための手順:

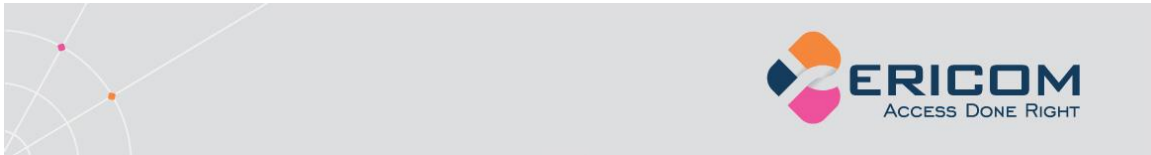
- 1) ローカル・アプリケーションで、希望するテキストのコピー作業を行います。
- 2) コピー アイコンをクリックします。



- 3) AccessNow のクリップボードにコピーされたテキストをペーストします。



- 4) コピー ボタンをクリックします。



- 5) リモートのクリップボードにデータがコピーされた後、ペースト作業を行い、AccessNow セッション内のリモート・アプリケーションにテキストをペーストします。

## ファイル転送

Ericom AccessNow はローカル・デバイスとリモート RDP セッション間でファイルを転送する機能を備えています。ファイルをダウンロードする際は、Access Server サービスに対象のファイルを読み込むためのアクセス権があることを確認します。ファイルをアップロードする際は、Access Server サービスに対象のファイルを書き込むアクセス権があることを確認します。

- ローカルおよびマッピングされたドライブのファイル転送がサポートされています。
- ファイル転送機能がセッション内で使用できないことを Access Server が検出した場合、アイコンは自動的に非表示になります。
- ユニコード文字のファイル名はサポートされない場合があります。
- ファイルのアップロードは Microsoft Internet Explorer 9 (MS IE9) ではネイティブで動作しない可能性があります。
- ファイル転送機能を使用するには、Access Server が RDP ホスト上にインストールされていることが必要です。Access Server をゲートウェイとして使用しないでください。

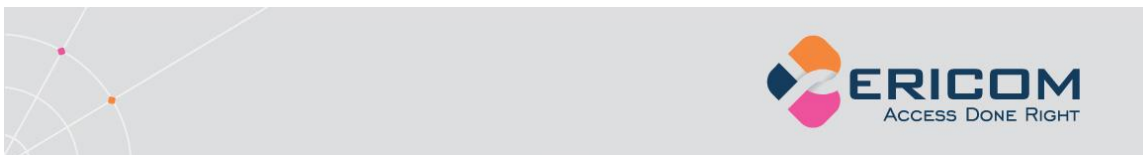
## リモートからローカルにファイルをダウンロードする

リモートの AccessNow セッションからローカルのデバイスにファイルをダウンロードするには 2 つの方法があります。

方法 1: AccessNow セッション内の ダウンロードボタンを押します。







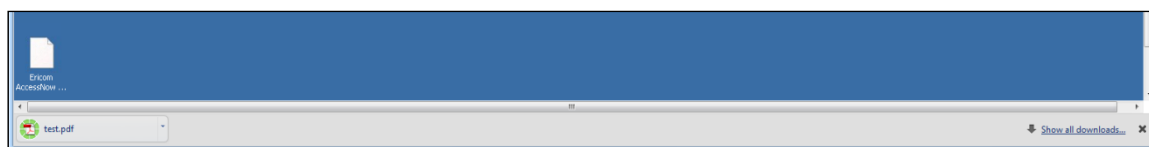
開く ダイアログが表示され、ユーザはダウンロードする対象のファイルを選択することができます。



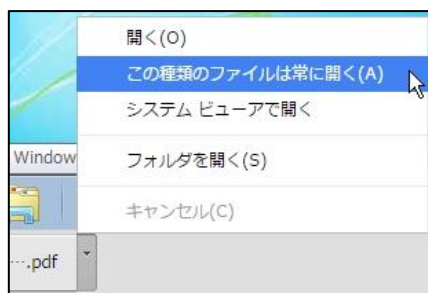
方法 2: 対象のファイルを右クリックし、送る と *Remote Client* を選択します。

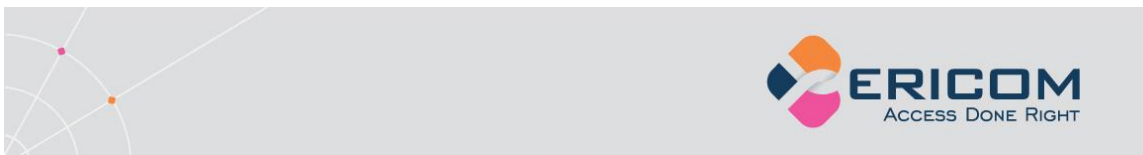


いずれかのダウンロード方法を使用すると、選択されたファイルはブラウザで設定されたダウンロードフォルダにダウンロードされます。



ダウンロードフォルダを開き、ファイルを参照します。ダウンロードを表示する方法は使用するブラウザにより異なります。ダウンロードフォルダの場所はブラウザで設定されているパスによって異なります。





## ローカルからリモートにファイルをアップロードする

ローカルのデバイスからリモートの AccessNow セッションにファイルをアップロードするには 2 つの方法があります。

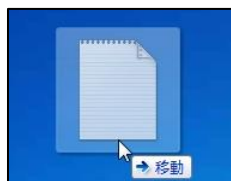
方法 1: AccessNow セッションの右上のコーナーにある アップロードボタンを押します。



ファイルのアップロード・ダイアログが表示され、ユーザはアップロードするファイルを選択できます。



方法 2: 対象となるファイルを、ローカルのデバイスから AccessNow セッションを実行しているブラウザ上にドラッグします。

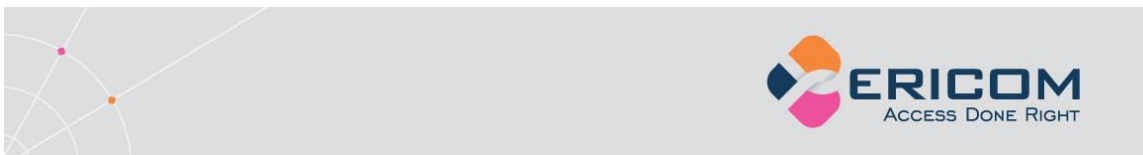


いずれかのアップロード方法を使用すると、選択されたファイルが指定したフォルダにアップロードされます。ファイル転送の進行状況を示すダイアログ・ボックスが表示されます。

**注意** Apple の Safari ブラウザでは同時に 1 つのアップロードのみがサポートされ、複数のファイルを一度に処理することはできません。

## ビルトインの汎用ドライバ印刷

Ericom AccessNow にはリモートの印刷ジョブをローカルの web ブラウザにリダイレクトするための、ビルトインの汎用プリンタを備えています。印刷ジョブを web ブラウザで受信した後、保存または印刷することができます。



AccessNow では、PDF の検証手順をバイパスし、直接ローカル・ブラウザの印刷プレビュー機能へ印刷出力を送信することも可能です。詳細については、この章の後半の「ダイレクト・プリント・モード」のセクションを参照してください。

**注意** ビルトインの AccessNow 汎用プリンタ・ドライバは汎用ドライバを使用するため、特定の状況では機能しない場合があります。印刷の出力もネイティブ・ドライバによるものと異なる場合があります。

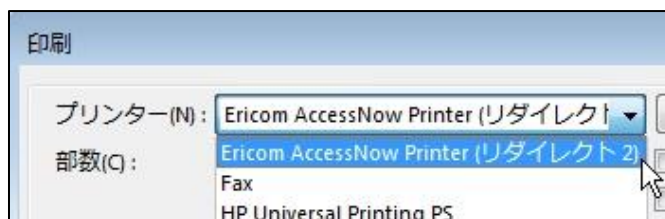
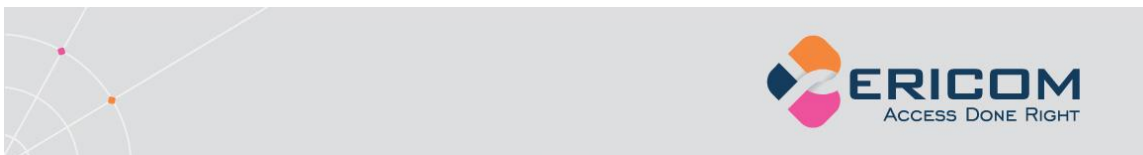
## 要件

AccessNow プリンタをリモート・セッションに追加するには、Access Server サービスにプリンタをセッションへ追加する権限が必要です。ほとんどの場合、ローカル・システムのアカウントには十分な権限があります。十分な権限がない場合には、Access Server のプロパティに進み、権限のあるユーザ・アカウントを入力します。



## 使用

Ericom AccessNow プリンタは、接続時にリモートの RDP セッションに追加されます。セッションがアクティブな間、利用可能なプリンタとして AccessNow プリンタが表示されます。AccessNow プリンタで印刷するには、ユーザは印刷ダイアログのウィンドウから選択します。



AccessNow プリンタが AccessNow セッションで通常使うプリンタとして設定されます。AccessNow プリンタが通常使うプリンタとされるのを防ぐには、以下のグループ・ポリシーを設定します。クライアントの通常使うプリンタをセッションの通常使うプリンタに設定しないでください

印刷作業を実行すると、AccessNow はローカルの web ブラウザに印刷出力を送信します。ブラウザで印刷出力の確認と印刷の準備が完了すると、準備完了の状況ダイアログが表示されます。

ユーザが印刷出力を確認するために表示ボタンを押すと、ワンタイムの URL を使用して新たなブラウザのタブ内に出力内容が表示されます。今後使用するためこの URL をブックマークすることはできません。

印刷用 URL のサンプル:

```
/accessnow/Ericom/FileTransfer/Print/P1/%7B7903DDCA-A91F-4A7E-8985-E6E216551921%7D?address=192.168.35.199&port=8080&secured=true
```

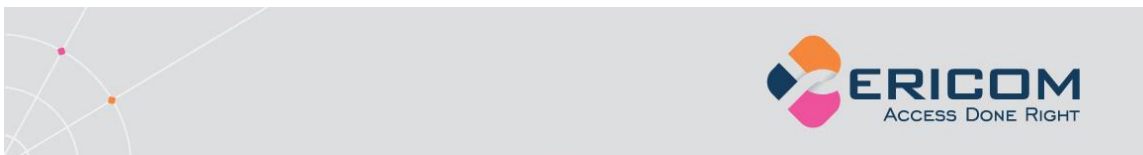
印刷出力が表示された後、出力をデバイスのローカル・プリンタに送信するか、web ブラウザを使用してローカルの PDF ファイルとして保存することができます。web ブラウザは、この両方の機能のショートカットを備えている場合があります。Chrome での例は以下ようになります:



**注意** 利用可能なプリンタとして AccessNow のプリンタが表示されない場合は、セッションにプリンタを追加する権限がユーザに付与されているかを確認してください。

## Windows 8 と 2012 での AccessNow プリンタ の使用

Windows 8 と 2012 には AccessNow プリンタをサポートするドライバはビルトインされていません。この機能は HP Universal Postscript(PS)Printing ドライバをインストールす



ることで追加が可能です。HP の web サイトまたは Ericom の Update Center から適切なドライバをダウンロードしてください。

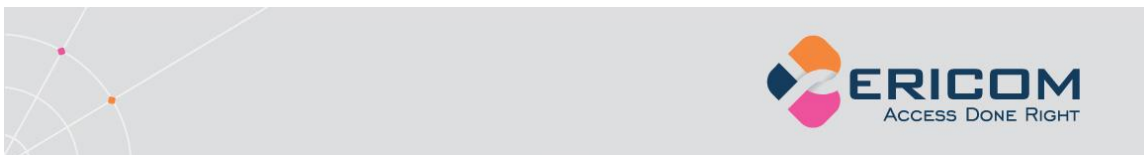
インストール中、インストールモードが要求された場合、ダイナミックモードを選択します。それ以外の選択はデフォルトの設定を使用します。



## HP Universal PS Mode で AccessNow プリンタを使用する

Windows 2008 R2 と 2003 上では、AccessNow Printer は特定のプリンタ・モードをドライバ (LJ 2880 または 8500)として使用します。このドライバが正確な印刷出力を行わない場合には、インストールされた HP Universal ドライバが使用されるよう設定されている場合があります(詳細なインストールにつきましては、前の章を参照してください)。RDP ホストに HP Universal PS ドライバをインストールした後、以下の手順を実行し AccessNow において有効にします。

- C:\Program Files\Ericom Software\Ericom Access Server\WebServer\AccessNow\resources に進む
- *Blaze.txt* ファイルを見つけ、テキスト・エディタで開く
- 次の行を追加します: *use HP Universal PS Printer Driver:i:1*
- この設定が有効にされた状態で起動された AccessNow セッションでは、AccessNow プリンタに HP Universal PS ドライバが使用されます。



## 高速印刷のためのダイレクト・プリント・モード

ダイレクト・プリント・モードを有効にすると、印刷プロセスを高速化するために、ユーザ認証および「PDF として保存」のオプションが削除される場合があります。

config.js ファイルで、*directprint*: **true** と設定します。

ダイレクト・プリント・モードが有効にされた場合、AccessNow プリンタへ送信された印刷出力は、ブラウザのローカルな印刷プレビューダイアログに表示されます。

## URL リダイレクト

URL リダイレクトにより、リモートの RDP デスクトップで選択(クリック)された HTTP と HTTPS の URL リンクをローカルの Web ブラウザで開くことができます。この機能により、リモート・リソースの代わりにローカル・リソースをリダイレクトされた Web サイトで 사용할 ことができ、優れたパフォーマンスをもたらします。

URL はローカル・デバイスが web サイトにアクセス可能な場合でのみリダイレクトされます。URL が RDP セッションからのみ閲覧可能である場合には、リダイレクトは行われません。

URL リダイレクトを有効にするには、AccessNow 設定ボタンをクリックし、クライアントのブラウザのリンクを開く(URL リダイレクト)をオンにします。

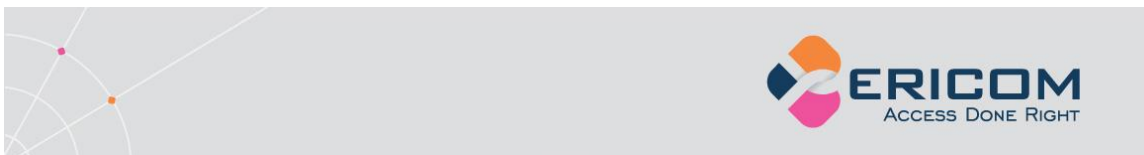
URL リダイレクトが有効なセッション中、ユーザが URL を開くとプロンプトが表示され、どこから URL を開くかを確認されます。

*On Client*: ローカル・デバイスの新しいブラウザ・タブで URL を開きます。

*On Server*: リモートの RDP セッション内で URL を開きます。

*Cancel*: 要求をキャンセルする。

**注意** 現在のところ、Windows 2012 RDP セッション・ホストと Windows 8 RDP ホストは、URL リダイレクション機能との互換性がありません。



## セッションを終了する

ユーザがセッションをログアウトまたは切断するとブラウザは接続ダイアログに戻ります。

終了すると、デバイス上にセッションのトレースは一切残りません。セキュリティ強化のため、以前に AccessNow セッションを実行したブラウザのタブやウィンドウを閉じてください。

### Disconnect (切断)ボタン

Disconnect ボタンを押すことで、手動でリモート・セッションを切断することができます。



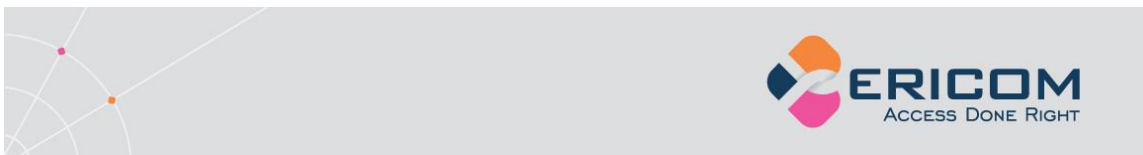
### セッションのアイドルリング時の自動ログオフ

リモート・デスクトップのセッションは、リモート・デスクトップのスタートメニューの ログオフ オプションを使用して明示的にログオフすることができます。

アプリケーション・セッションはアプリケーションを閉じた際にログオフします。アプリケーションがすぐに閉じない、または無応答となる場合があります。AccessNow は自動ログオフ機能を備え、特定の時間内にスクリーンへ何も表示されない場合、セッションは自動的にログオフします。デフォルトは 3 秒で、この値は *Resources* フォルダの *blaze.txt* ファイルを変更し、**RDP\_LogoffDelaySeconds:i:n** の行を追加して変更が可能です。(n は時間を表し、規定値は 3 となります)

## 自動再接続

アクティブな AccessNow セッションは、一時的なネットワークの停止の際にユーザのセッションを再接続し、自動的に回復を試みます。再接続の試行中はユーザに多少の遅延



が感じられることがあります。セッションが再確立された後は、セッションに再度ログインすることなく作業を継続できます。

この機能は config.js の値: `reconnectOnDropped: false` で無効にされている場合があります。

## 文字入力の問題を解決する(スキャン・コード入力を有効にする)

一部のアプリケーションを使用して AccessNow セッションで文字を入力する際に、キーボードからの入力に誤りが生じる場合があります。影響が生じるアプリケーションでは、ユニコードではなく、スキャン・コードでの入力が必要な場合があります。スキャン・コードでの入力を有効にするには、AccessNow Web ページの設定ボタンをクリックします。その後、「キーボードスキャンコードを使用する」設定をオンにし、「設定」ボタンを再度クリックし、テストします。

スキャン・コードは、config.js ファイルの設定を変更して有効にすることも可能です。

<code>convert_unicode_to_scancode</code>	<p>デフォルトは <code>false</code> です。スキャン・コードで文字を送信する一部のアプリケーション(例: VMware vSphere Client、Ericom Blaze Client、その他の文字入力に問題が発生するアプリケーション)を使用する場合には、<b><code>true</code></b> に設定します。この設定により、選択されたロケールに応じて、スキャン・コードが生成されます。</p>
--	--

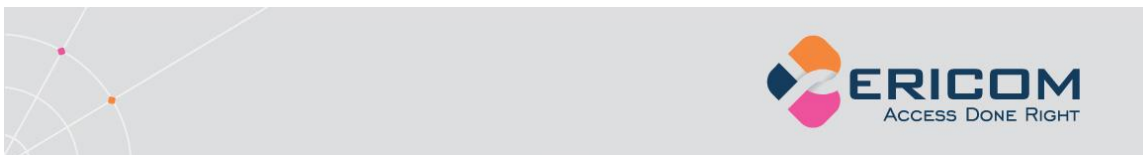
**注意** config.js ファイルの最初のラインで「`///`」を削除してください。これはコメントとして AccessNow にその行が無視するよう指示しているものです。削除後は、このラインが有効となります。

```

| keyboard_locale: "00000409",
| convert_unicode_to_scancode: true,
| endURL: "",

```





## Google Chromebook

Ericom AccessNow は、Google Chromebook や Chromebox 上でも Google Chrome ブラウザ 上と同様に動作します。Chromebook または Chromebox 上で AccessNow を使用する際に覚えておくと便利なヒントは以下のとおりです:

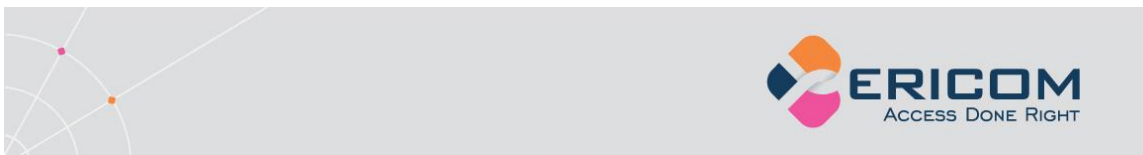
機能	説明
マウスの左クリック	Chromebook のトラックパッドを指一本でクリック
マウスの右クリック	Chromebook のトラックパッドを指二本でクリック
ドキュメントや Web サイトのスクロール	Chromebook のトラックパッドを指二本でドラッグして上下にスクロール
Chromebook の設定	アドレス・フィールドに次を入力します: <code>chrome://settings</code>

ほとんどの Chromebook のショートカット・キーの組み合わせ(例: CTRL+T で新しいタブを開く)は、アクティブな AccessNow セッション中もサポートされます。修飾キーの設定も AccessNow セッション内でサポートされています。

## Chromebook キーボード

Chromebook のキーボードには Windows で使用されるキーの一部が存在しません。ChromeOS は、既存のキーを ALT ボタンと一緒に使用することで存在しないキーを代用する標準的なマッピング機能を備えています。AccessNow は以下のキーの組み合わせをサポートしています。

Windows コマンド	AccessNow でのキーの組み合わせ
Delete (DEL)	ALT+Backspace
Page Up	ALT+Up
Page Down	ALT+Down
Home	CTRL+ALT+Up
End	CTRL+ALT+Down



さらに、AccessNow は ChromeOS の更なるキーの組み合わせに対応するための特別なマッピング機能を備えています。

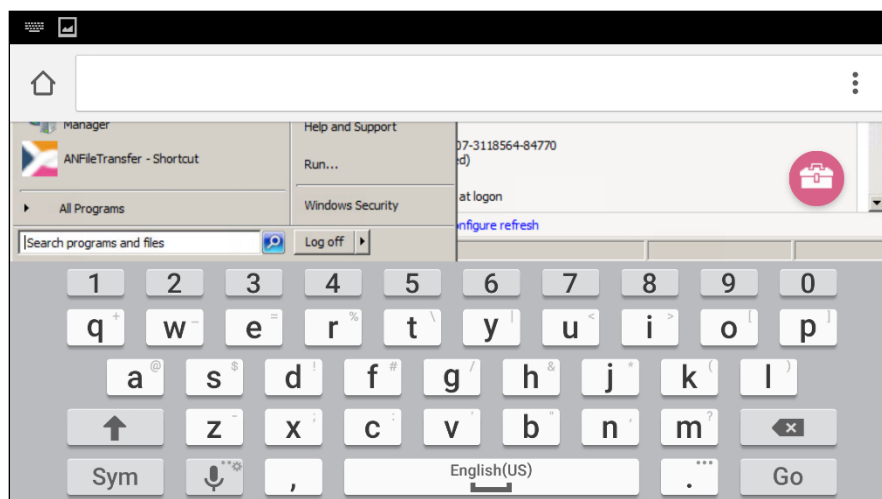
Windows コマンド	AccessNow でのキーの組み合わせ
F1, F2, ...	CTRL+1, CTRL+2, ...
ALT+TAB	ALT+q
ALT+SHIFT+TAB	ALT+SHIFT+q
CTRL+Home	CTRL+ATL+Left
CTRL+End	CTRL+ALT+Right

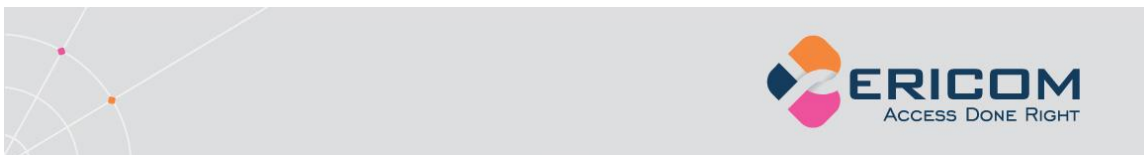
## タッチ・デバイス (タブレットとスマートフォン)

Ericom AccessNow は HTML5 ブラウザ(例: Android Chrome)で使用する場合、どんなタブレットやスマートフォン上でも動作します。AccessNow によりデバイスがタッチ操作対応かを自動的に検出され、ビルトインの文字入力用の仮想キーボードと画面操作のジェスチャー・サポートが自動的に適用されます。

### キーボードの自動検出と表示

AccessNow はマウス・フォーカスが文字入力フィールドにある時を自動的に検出し、自動的に仮想キーボードをデバイスへ表示します。





この機能を無効にするには、オレンジの AccessNow ツールバー を展開し、「自動キーボードの無効化」 ボタンをタップします。



## デフォルトキーボードの有効化

文字入力用にデバイスのデフォルトのキーボードを有効にするには、キーボードボタンをタップします。



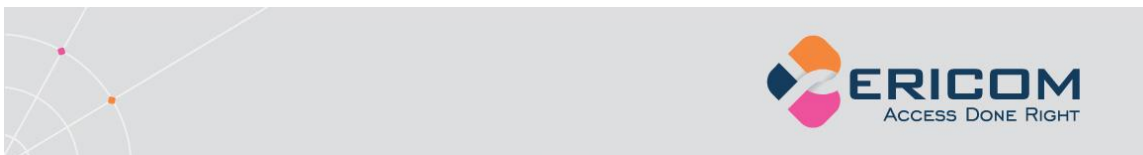
## ジェスチャーのサポート

AccessNow は、タッチ操作のデバイス上で使用する際の様々なジェスチャーをサポートしています。サポートされているジェスチャーの完全なリストを参照するには、ツールバーの ジェスチャーのヘルプ・アイコンをタップします。



## iOS のショートカット

AccessNow のアイコンを iOS のデスクトップへ 保存すると、そのショートカットは全画面モードで AccessNow セッションを開きます。 ブラウザのツールバーを非表示とし、より広いリモート・デスクトップ領域が利用可能になります。



## 6. 高度な設定

Ericom AccessNow は事前定義された値を設定したり、提供されたカスタム値を受け入れたりする柔軟な方法を備えています。それらの値は AccessNow の start ページに表示されるか、ユーザによる変更を一切許可することなく自動的な接続をトリガするために使用されます (この例については、Ericom AccessNow のオンラインのデモを参照してください <http://demo.ericomaccessnow.com>)。

Ericom AccessNow をサードパーティの Web サイトやポータルと統合することもできます。Ericom AccessNow では、外部のページまたは Web サーバから直接設定を受け入れることができます。それらの設定は AccessNow の start ページに表示され、ユーザはそれらの確認・変更や、または自動的な接続へ使用することができます。

### AccessNow のインターフェースを変更する

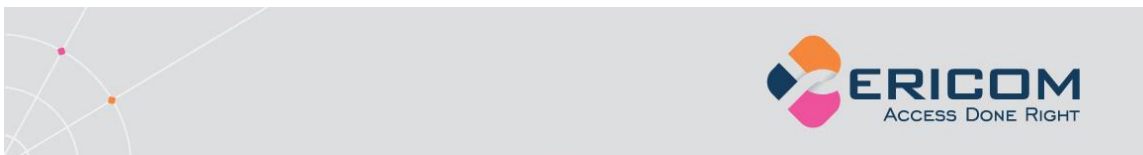
一部のビルトインの画像は、外観をカスタマイズするために変更が可能です。画像が保存されている resources フォルダへのパスは次のようなものとなります:

C:\Program Files (x86)\Ericom Software\Ericom Access  
Server\WebServer\AccessNow\resources

**注意** 変更を加える前に *resources* フォルダをバックアップしてください。元のファイルに復元するには、元の *resources* フォルダ を元のロケーションにコピーします。

一般的にカスタマイズの対象となる AccessNow の画像ファイル:

Ericom.jpg	AccessNow ページの上部左端にあるロゴ画像
fileDN_48_mono.png	ファイルのダウンロード機能を示す画像
fileUP_48_mono.png	ファイルのアップロード機能を示す画像
globe.jpg	AccessNow ページの一部の背景画像。AccessNow インターフェースの背後に透かし画像として表示されま



	す。
HTML5_Logo_64.png	AccessNow ページの上部右端にある小さなロゴ

**注意** より高度なカスタマイズは、経験豊富な web 開発者に依頼することをお勧めします。ただし、そのようなカスタマイズは標準的な実装の範囲外となり、Ericom サポートによりサポートされない場合があります。

## 接続名を変更する

AccessNow の接続名は、デフォルトでは RDP ホストのアドレスが使用されます。このラベルは独自の文字列へ変更できます。

接続名を変更するには、以下の手順を実行します:

`config.js` ファイルを開き、`name` の設定がない場合にはそれを追加します。

`name` に任意の文字列を設定します。この例では、新しい接続名として、`testname` を使用します。

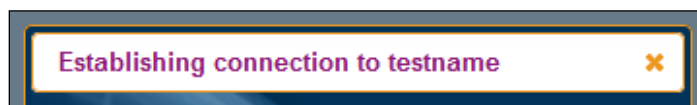
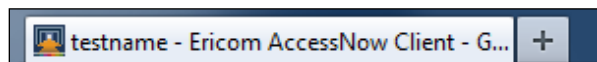
```

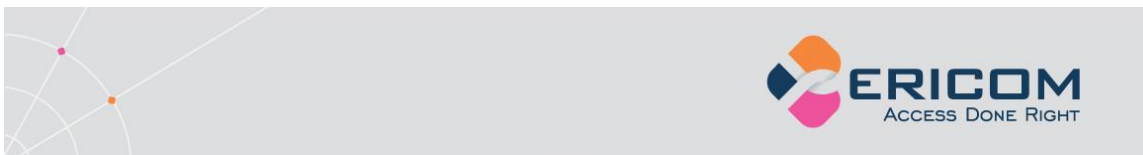
    executeTimeout: 1000,
    minSendInterval: 100,
    name: "testname",
    clipboard: true,
    clipboardTimeoutSeconds: 15,

```

`name` の設定は次の cookie を使用することができます: `EAN_name`

`name` のパラメータを設定すると、接続のブラウザ・タブと *Establish connection* ダイアログ・ボックス内に新しいラベルが表示されます。





## Config.js の静的な設定

管理者は、AccessNow web コンポーネントの一部としてインストールされている **config.js** ファイルを変更することで、AccessNow の設定を変更することが可能です。このファイルは、Windows メモ帳などの任意のテキスト・エディタを使用して変更が可能な JavaScript ファイルです。ファイル内のほとんどの設定は以下のフォーマットに従っています:

name: value,

この値は数字、フラグ (true または false)、または引用符で閉じられているテキストにすることができます。いくつかの設定は、設定を無視することを意味する二つのスラッシュ「//」が接頭辞として付いています。それらに設定値を割り当てるには、この 2 つのスラッシュ「//」を削除します。このファイルには Javascript のルールが適用され、一部の文字は使用することができません(例: バックスラッシュ)。設定の完了後、ファイルを保存すると、次のユーザから新たな設定が適用されます。

各設定の説明は後述する設定一覧表を参照してください。

**注意** 変更を保存する前に、元の *config.js* ファイルをバックアップしてください。これにより、簡単に元の設定へロールバックすることができます。

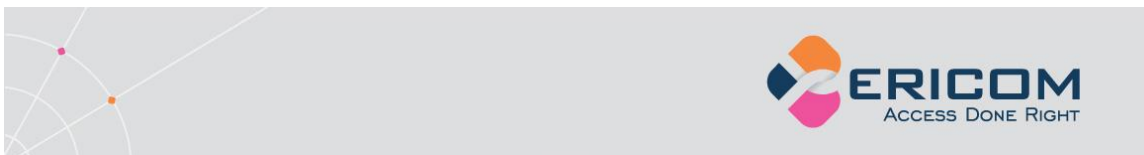
## URL クエリーの文字列を渡す

AccessNow は URL 内でカスタムの設定をパラメータとして渡す機能をサポートしています。例えば、以下の URL は、RDP ホストよりリモート・デスクトップ全体を表示するのではなく、メモ帳のアプリケーションのみを起動するよう AccessNow に指示します。

`http://app.ericomaccessnow.com?remoteapplicationmode=true&alternate_shell=Notepad.exe`

URL パラメータの文字列の開始には、URL の末尾に「?」の文字を追加します。

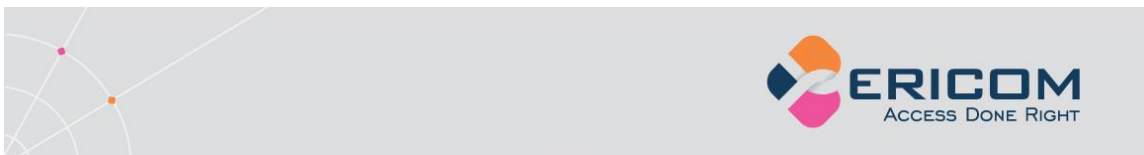
各パラメータは「&」記号を使用して区切ります。



値の中に、スペース・キーなど URL に含むことができない特殊な文字が含まれる場合、それらの文字はエスケープ文字列を使用して表示される必要があります。例えば、スペース文字は「%20」としてエンコードされます。

クエリーの文字列によく使用される変数	
autostart=	(true または false) 接続ボタンを押すことなく自動的にセッションを開始します
address=	(文字列) Access Server のアドレス
full_address=	(文字列) RDP ホストのアドレス
username=	(文字列) RDP セッションへ渡すユーザ名
password=	(文字列) RDP セッションへ渡すパスワード (警告: URL では暗号化されません)
domain=	(文字列) ユーザ名で指定されていない場合のユーザのドメイン
remoteapplicationmode=	(true または false) 特定のアプリケーションのみを起動する
alternate_shell=	(文字列) アプリケーション・モードを使用する場合のアプリケーションへのパス (例: Notepad.exe)

**注意** URL でパラメータを渡すのはとてもシンプルで簡単に使用できますが、ユーザの資格情報などの機密データを渡すには適していません。AccessNow のパラメータ値を安全に転送するためには、ブラウザの cookie を使用してください。



## 設定グループを定義する

すべてのユーザは config.js 設定ファイルで定義された設定を共有します。特定のグループに属するユーザのグローバル設定を上書きする特別な設定を指定することが可能です。複数の設定グループは設定ファイルで定義することができます。

例えば、*Marketing* グループでのクリップボードのリダイレクトと印刷を有効にするには、以下のように config.js を変更します:

```
var defaults = {                                // this already exists in the file
  ...
  "Marketing": {                                // bold text are new additions
    printing: true,
    clipboard: true
  },
};
```

**注意** *Marketing* を囲む二重引用符は同一であることが**必須**です。文字列を他のソースからコピーした場合、それらを削除し、再入力することが必要となる場合があります。

また、設定グループの最後の設定で、末尾が「,」とならない必要があります。このカンマは閉じ括弧「}」の後に配置します。

*Marketing* グループで使用されている URL に、次のように *settings* パラメータを追加します:

<http://www.accessnow.com/accessnow/start.html?settings=Marketing>

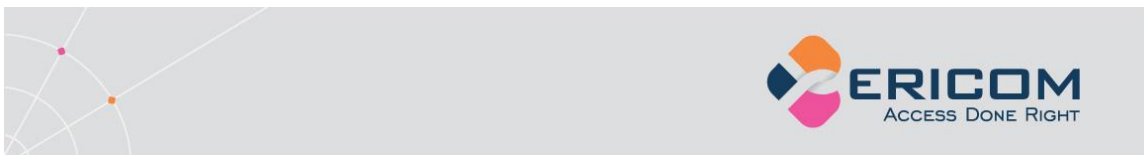
## Cookie を使用して設定を渡す

Ericom AccessNow の Cookie は、config.js ファイルと同じ設定を使用しますが、**EAN\_** prefix が追加されます。例えば、*gateway\_address* 設定は cookie *EAN\_gateway\_address* を使用して設定されます。Ericom AccessNow により cookie が読み込まれた後、すぐにその cookie が消去されます。

cookie を使用する場合、以下を実行してください:

- cookie にはユーザの資格情報などの機密情報が含まれるため、cookie を暗号化するためには HTTPS を使用します。





- cookie に *Secure* オプションを設定し、暗号化されていない通信で送信されないことを確実にします。
- Ericom AccessNow は cookie の値へのアクセスに JavaScript を利用するため、*HttpOnly* cookie を使用しないでください。
- *Path* オプションを使用して cookie 送信元アドレスを制限します (Ericom AccessNow の cookie はいかなるホスト側のアドレスにも送信しないでください)。
- セッション終了後すぐに期限切れとなる セッション cookie を使用するか、有効期限が短く指定されたセッション cookie を使用します。

## 暗号化されたパラメータを渡す

AccessNow は、base-64 のエンコード・パラメータを使用して複数の設定を渡す機能を備えています。この機能は、転送内容をユーザが簡単に理解できない方法を使って URL で設定を渡す場合に役立ちます。

例えば、次のように表示するかわりに:

`http://myserver:8080/?username=me&password=secret`

暗号化された base-64 のエンコード・パラメータは次のように表示されます

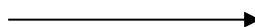
<http://myserver:8080/?params=dXNlcm5hbWU9bWUmcGFzc3dvcmQ9c2VjcmV0>

注意 cookie `EAN_parameters` を使用すると、cookie を利用して base-64 のエンコード・メカニズムを同様に使用できます。

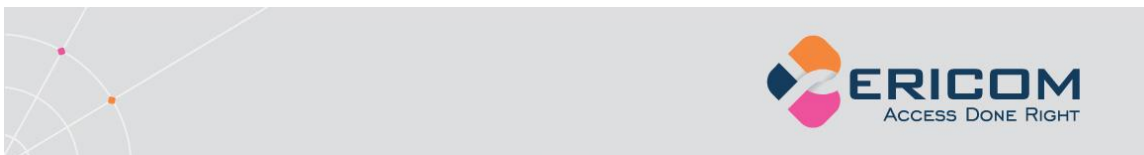
## 設定の優先順位

Ericom AccessNow クライアントを開始すると、複数のソースからの設定情報を読み取ります。複数のソースに同じ設定に対する異なる値が含まれている場合、以下の優先順位に基づき Ericom AccessNow が使用する値が決定されます:

優先順位が低い



優先順位が高い



*config.js* | 前のセッションから保存した設定 | *cookie* | *URL* パラメータ

例えば、*gateway\_address* が *settings.js* で「server1」と指定される一方、*cookie* (*EAN\_gateway\_address*)では「server2」と指定されている場合、「server2」が使用されます。

*overrideSaved* 設定が *config.js* で *true* に設定されている場合、*config.js* ファイルで事前定義された設定は以前使用した設定を上書きします。優先順位:

優先順位が低い



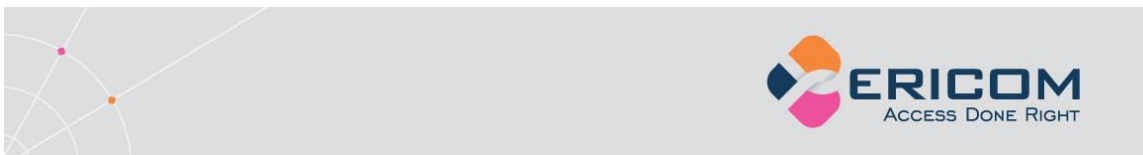
優先順位が高い

前のセッションから保存した設定 | *config.js* | *cookie* | *URL* パラメータ

## Form POST を使用して設定を渡す

Ericom AccessNow 3.3 またはそれ以上のバージョンでは、Form POST の変数を使用して変数を渡す機能がサポートされています。この機能は、サードパーティのポータルを使用して AccessNow に資格情報や設定を渡す際に役立ちます。

任意の値を AccessNow に渡すには、変数を次のパスに POST します: */accessnow/sso/* 接頭辞 *EAN\_Cookie* を使用して POST を使用して渡す設定を定義します。Cisco® ASA SSL VPN で POST を使用して、ユーザ名、パスワードおよび暗号化設定を渡す例は以下のとおりです:



Bookmark Title: JS - AccessNow 2012 Session Desktop

URL: http://192.168.254.13:8080/accessnow/sso

Preload Page (Optional)

Preload URL: http://

Wait Time: (seconds)

Other Settings (Optional)

Subtitle:

Thumbnail: -- None -- Manage

☒ Place this bookmark on the VPN home page

☐ Enable Smart Tunnel

**Advanced Options**

URL Method: ☐ Get ☒ Post

Post Parameters

Add Edit Delete

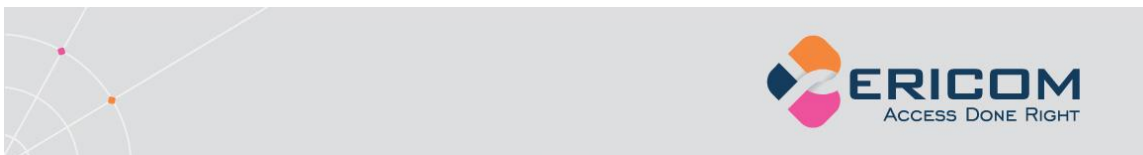
Name	Value
EAN_username	CSCO_WEBVPN_USERNAME
EAN_password	CSCO_WEBVPN_PASSWORD
EAN_encryption	true

注意 AccessNow3.3 以前のバージョンにて Form POST を使用するには、Ericom Secure Gateway が必要です。

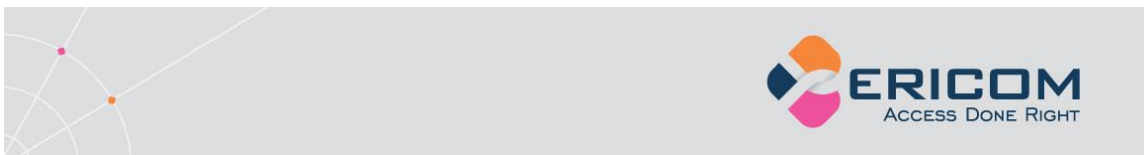
## 設定一覧表

config.js ファイルには以下の設定が含まれています。設定名は大文字と小文字を区別します。cookie を使用して設定が指定されている場合、設定名に接頭語 **EAN\_** が付きます。

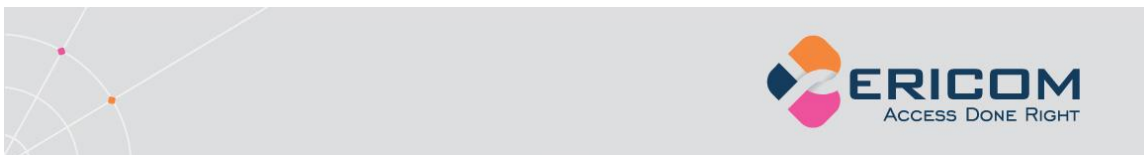
設定値	説明
overrideSaved	デフォルトは false です。ユーザが変更した設定はセッション間で保存され、config.js で設定されている値を上書きします。config.js で true に変更する、以前使用された設定が上書きされます。
noSaved	1 (デフォルト)、0 - 常に保存した設定を使用します、1 - SSL VPN 接続では保存を無効にします、2 - 保存した設定を使用しません



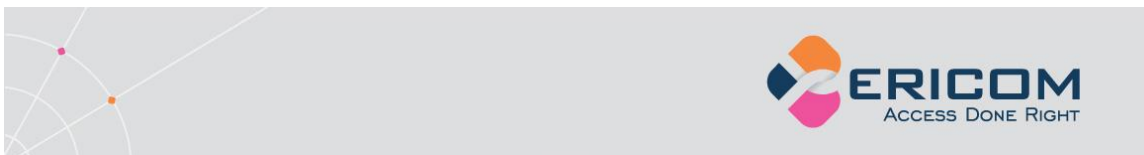
ignoreURLparameters	false(デフォルト): AccessNow URL パラメータ機能を無効にするには、true に設定します。AccessNow ログイン用の web ページをロックし、ユーザによる AccessNow のカスタム・パラメータの入力を防ぐために役立ちます。
onlyHTTPS	デフォルトでは、AccessNow は最初に WebSocket を使用します。Ericom Secure Gateway が AccessNow と一緒に使用され、WebSocket が利用できない場合には、接続は HTTPS に戻ります。この設定が <b>true</b> の場合、即座に HTTPS が使用されます。
noHTTPS	デフォルトでは、AccessNow は最初に WebSocket を使用します。Ericom Secure Gateway が AccessNow と一緒に使用され、WebSocket が利用できない場合には、接続は HTTPS に戻ります。この設定が true の場合、WebSocket のみが使用され、HTTPS フォールバックは無効にされます。
autostart	アクセス時に AccessNow の start.html に自動的に接続することを強制するには、true に設定します。
hidden	<p>config.js で表示されている、カンマまたはスペースで句切られたフィールド名のリスト。例: 「username,password,domain」リストされたフィールドは非表示となり、ユーザによる変更が不可能になります。</p> <p>詳細ボタンなどのボタンを非表示にするには、ボタンのテキストに接頭辞 <b>show</b> を追加します。例えば、「showAdvanced,showAbout」を使用して詳細と概要情報 ボタンの両方を非表示にします。</p>



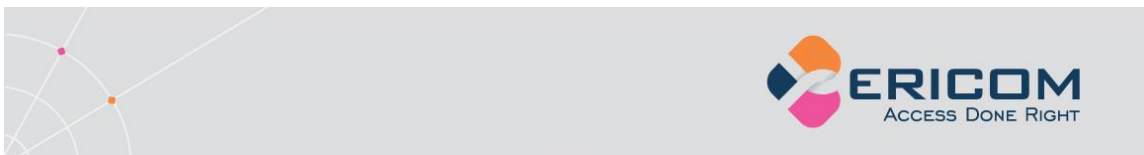
	<p>「locale」を使用して「表示言語フィールド」を非表示にします。</p> <p>非表示としたすべての変数により以前保存した設定が無視されます。</p>
settings (URL parameter only)	設定グループ名が使用されます。
wsport	<p>クライアントに使用される既定の WebSocket ポート。ファイルで指定されている値(デフォルトは 8080 )は WebSocket 通信の暗号化や、暗号化を解除するために使用されます。</p> <p>Access Server のポートが変更された場合には、この値は手動でアップデートする必要があります。</p> <p>start.html ページの Access Server の値にポートを入力しない場合、このポート値が使用されます。ユーザは Access Server のアドレスの後にポート値を指定する事により、異なる値を提供することもできます。</p>
gwport	アドレス・フィールドで明示的に指定されていない場合、デフォルトのゲートウェイ・ポートが使用されます。
dialogTimeoutMinutes	非アクティブなダイアログが自動的に閉じられ、セッションがログオフした後のタイムアウト時間 (分単位)。 ログオフ・ボタンのあるダイアログにのみ適用されます。
sessionTimeoutMinutes	非アクティブなセッションの切断後のタイムアウト時間 (分単位)。このタイムアウトは、ユーザがキーボードやマウスのボタンをクリックすると解除されます。デフォルトは 0 で、この機能は無効にされてい



	ます。
specialkeys	Windows NT Security ダイアログ・ボックスを開始する CTRL+ALT+END(ローカルの CTRL+ALT+DEL と似ている)など、特別な RDP キーの組み合わせのコマンド用のサポートを有効にする。キーの組み合わせについてはこちらを参照してください。 <a href="http://support.microsoft.com/kb/186624">http://support.microsoft.com/kb/186624</a> Alt+Delete と CTRL+ALT+マイナス(-)はサポートされていません。
chromeKeys	<b>true</b> (デフォルト) の場合、ChromeOS の特別なキーの組み合わせをサポートします。
showDownload	<b>true</b> の場合、接続ダイアログで Access Server インストーラをダウンロードするリンクが表示されます。
clipboard	<b>true</b> (デフォルト) の場合、クリップボード機能を有効にし、 <b>false</b> の場合はその機能を無効にします。
clipboardTimeoutSeconds	クリップボードの画像が自動的に消去されるまでの遅延時間
clipboardUseFlash	<b>true</b> (デフォルト) の場合、ローカルのクリップボードへ一度のクリックでコピーするために Flash を使用する。
clipboardKey	クリップボードのペースト・ダイアログを開くためのキー。 <b>false</b> の場合、無効にされる。
console	デフォルトは <b>false</b> です。RDP コンソール・モードを有効にするには <b>true</b> に設定します。
settingsURL	接続設定ファイルの URL
endURL	AccessNow セッションの終了後に開く URL (ウィン

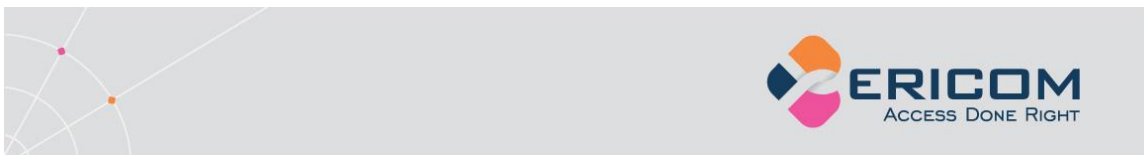


	<p>ドウを閉じるには 値「#」を使用します)。</p> <p>接頭辞に「^」記号が存在する場合、top.location の代わりに window.location の値が設定されます。これは AccessNow セッションがフレームに組み込まれている場合に役立ちます。</p> <p>例: 「^http://www.ericom.com」</p>
address	Access Server のアドレス
full_address	RDP ホストのアドレス
username	AccessNow セッションに渡すユーザ名
password	AccessNow セッションに渡すパスワード (config.js ファイルにクリア・テキストで入力されています)
domain	AccessNow セッションに渡すドメイン
remember	デフォルトは <b>false</b> です。ユーザパスワードが今後の使用のために AccessNow ページに保存するかを決定します。 <b>true</b> に設定すると、パスワードの保存が有効になります(キオスク利用にはお勧めしません)
encryption	デフォルトは <b>false</b> です。AccessNow クライアントからサーバへの暗号化を有効にするかどうかを決定します。
blaze_acceleration	<b>true</b> の場合 RDP アクセラレーションが使用されます
blaze_image_quality	数値を使用して Blaze の品質レベルを設定します。 例: 40 (良品質)、75、95 (最高品質)
resolution	AccessNow セッションの解像度サイズを設定します。値は AccessNow 画面解像度設定で有効なオプションである必要があります。例: 「1024,768」

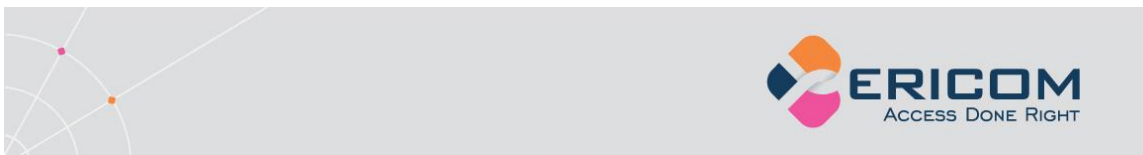


use_gateway	デフォルトは <b>false</b> です。リモート・アクセス用に Ericom Secure Gateway を使用する場合には <b>true</b> に設定します。
gateway_address	Ericom Secure Gateway のアドレスとポートを定義します。例: secure.acme.com:4343
remoteapplicationmode	デフォルトは <b>false</b> です。完全なデスクトップ・セッションではなく、特定のアプリケーションをアプリケーション限定のモードで起動するには、 <b>true</b> に設定します。
alternate_shell	<p>完全なデスクトップ・セッションの代わりに起動する特定のアプリケーションのパスを定義します。</p> <p>1 つバックスラッシュを使用している場合には、接頭辞にもう 1 つのバックスラッシュを追加する必要があります。文字列の一部に二重引用符を使用する場合、文字列全体を一重引用符で表記する必要があります (またはその逆) はバックスラッシュと二重引用符を使用したパスの例は以下のとおりです。</p> <p><b>"C:\\Program Files\\notepad.exe"</b></p> <p>JavaScript 言語での文字列の構文ルールの詳細についてはこちらを参照ください:  <a href="http://en.wikipedia.org/wiki/JavaScript_syntax#String">http://en.wikipedia.org/wiki/JavaScript_syntax#String</a></p>
shell_working_directory	<i>alternate_shell</i> パラメータで定義されているアプリケーション用に、作業ディレクトリを設定します。
useScancodes	<p>現在は使用されていません。</p> <p><i>convert_unicode_to_scancode</i> を参照してください。</p>
convert_unicode_to_scancode	デフォルトは false です。スキャン・コードで文字を

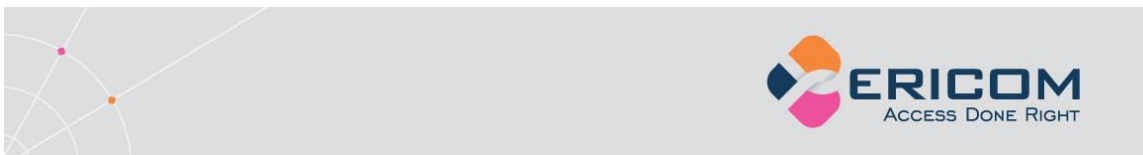




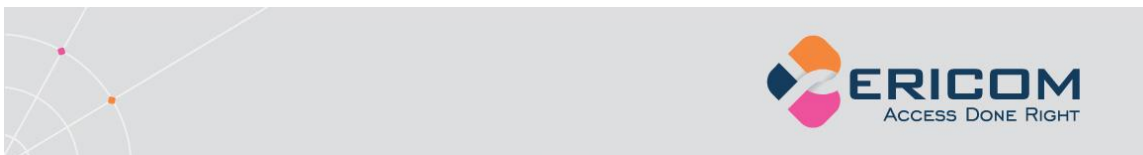
	送信する一部のアプリケーション(例: VMware vSphere Client、Ericom Blaze Client、その他の文字入力に問題が発生するアプリケーション)を使用する場合には、 <b>true</b> に設定します。この設定により、選択されたロケールに応じて、スキャン・コードが生成されます。
leaveMessage	ユーザがアクティブなセッションから移動した場合に表示されるメッセージ。
printing	印刷機能を有効にするには <b>true</b> にし(デフォルト)、無効にするには <b>false</b> にします。
fileDownload	<p>ファイルのダウンロード機能を有効とするには <b>true</b> にし(デフォルト)、無効とするには <b>false</b> にします。</p> <p>全画面を使用するには「screen」とします。</p>
fileUpload	ファイルのアップロード機能を有効とするには <b>true</b> にし(デフォルト)、無効とするには <b>false</b> にします。
audiomode	<p>0 - オーディオのリダイレクトを有効とします(デフォルト)</p> <p>1 - リモート・コンピュータでオーディオを再生します</p> <p>2 - オーディオのリダイレクトを無効にします</p>
name	接続名のカスタム文字列を定義します。初期設定では <i>RDP</i> ホストのアドレスが使用されます。
minSendInterval	マウスのボタンが押された際にクライアントから送



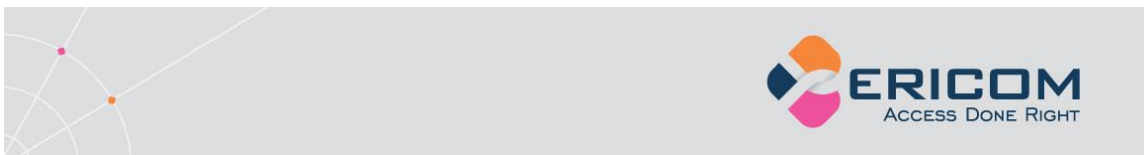
	信されるマウスの位置メッセージの最小間隔を指定します。単位はミリ秒です。
use_client_timezone	<b>true</b> (デフォルト)の場合、ローカルのタイム・ゾーンのリダイレクトを有効とします。False はそれを無効とします。
restrictHost	AccessNow からのアクセスを拒否するアドレスのリストを作成する場合にこの設定を使用します。DNS アドレス、IP アドレス、IP アドレスの範囲 (127.0.* は 127.0.0.0 から 127.0.255.255 をカバーします)を入力します。
reverseMouseWheel	0 - マウス・ホイールは通常どおり動作します 1(デフォルト) - マウス・ホイールの動作を Mac のみ逆方向にします 2 - マウス・ホイールの動作を常に逆方向にします
mouseWheelSpeed	120(規定値) - マウスの動作スピードを設定します。高い値であるほどスクロールが高速になります。
longPressRightButton	以下のようにマウスの右クリック動作を変更します: 0 (デフォルト) - 左クリックの長押しで右クリックを入力します。 1 - Mac のみ左クリックの長押しで右クリックを入力します。 2 - 常に左クリックの長押しで右クリックを入力します。  マウスが左ボタンを押しながら移動している場合、ドラッグ動作となり、右クリックは入力されません。



fullscreenKeyMode	<p>0 – 常に F11 をリモート・セッションに渡します</p> <p>1 – IE では F11 をローカルで処理します (全画面の開始 / 終了) その他のブラウザではリモート・セッションに渡します。</p> <p>2 (デフォルト) - 常に F11 をローカルで処理する (全画面の開始 / 終了)</p>
disableToolbar	<p>true (デフォルト) - ログイン時にツールバーを表示します。</p> <p>false – ツールバーを無効にします。</p>
reconnectOnDropped	<p>true (デフォルト) - ネットワークの停止が修復された後、自動的にセッションへ再接続します</p> <p>false – 自動再接続を無効にします</p>
reconnectMaxMinutes	切断された接続の再接続の間隔
disableToolbar	<p>false (デフォルト) - AccessNow のツールバーを表示</p> <p>true – AccessNow ツールバーを無効にします</p>
enableAutoKeyboard	<p>true (デフォルト) - マウスがテキスト入力フィールドにある時を自動検出し、自動的に仮想キーボードを表示します</p> <p>false – 自動検出と表示機能を無効にします</p>
touchPad	デフォルトは true です。モバイル・デバイス用のタッチパッド・サポートを有効にまたはします
reverseTouchScroll	false (デフォルト) - タッチ操作デバイスでの 2 本指スクロールを逆向きにします
noEndDialog	セッション切断のダイアログを表示しない



nameOnly	タイトルに接続名のみを表示
fastLogoff	公開されているアプリの高速ログオフを有効にします ( remoteapplicationmode が true に設定されている必要があります)
clipboardSeamlessCopy	true (デフォルト) - シームレスなクリップボードのリダイレクトを有効にします (このオプションは Chrome のみに適用されます)。MS IE では常に有効にされ、シームレスなコピー・ペーストは無効にすることができません。
MinWidth	AccessNow セッションが使用する最小水平解像度を設定します (AccessNow セッションのサイズはこのピクセル値より小さくなりません) 「auto」 を使用している場合、デフォルトは 768 です。
MinHeight	AccessNow セッションが使用する最小垂直解像度を設定します (AccessNow セッションのサイズはこのピクセル値より小さくなりません) 「auto」 を使用している場合、デフォルトは 600 です。
blockAltOrCtrlCombinations	false (デフォルト) - CTRL キーまたは ALT キーを含むキーの組み合わせをブロックします。
redirectUrlsOnServer	サーバ上での URL リダイレクトを有効にします
defaultErrorMessage	一致する翻訳が見つからなかった場合、デフォルトのエラー メッセージを表示します
fireFoxProgrammaticFullScreen	false (デフォルト) - Firefox では FullScreen API を使用し、全画面表示時の ESC キーの使用を無効にします。



--	--

これらの設定はユーザによる新たなセッションの開始後にのみ有効となります。

**注意** 変更を反映するために、ローカルのブラウザを閉じて再度開く必要があります。ブラウザのキャッシュのクリアが必要になる場合もあります。

## iframe に AccessNow を埋め込む

iframe 機能を使用してサードパーティの web ページに AccessNow を埋め込むには、対象となるページに iframe タグを配置し、iframe の SRC 属性が AccessNow URL を参照するように設定します。

例:

```
<body>
  <h1>Embedded AccessNow</h1>
  <iframe src="http://127.0.0.1:8080/accessnow/start.html"
    style="width:1024px; height:768px"></iframe>
</body>
```

iframe を使用する場合は、AccessNow が親フレームにアクセスする場合があります。同一生成元ポリシーに従い、プロトコル、ホストおよび親フレームのポートが iframe の src (AccessNow へのリンク)と一致していることを確認してください。

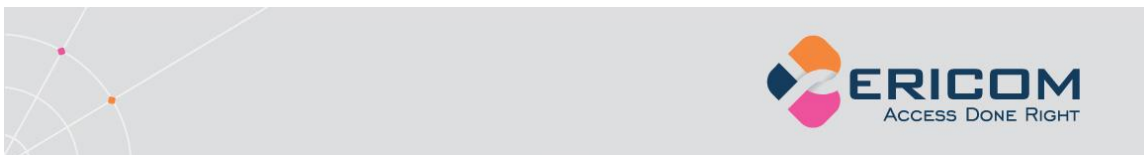
例えば、ページが <https://example.com:8021/index.html> からアクセスされている場合、iframe の src 属性は <https://example.com:8021> で開始される必要があります。

(ヒント: //example.com:8021 を使用すると、ブラウザが自動的に http:// や https:// のプロトコルを選択します)

## セッション後のリダイレクト

AccessNow のセッション終了時、endURL 設定を使用して指定した URL にブラウザを移動するように設定することが可能です。

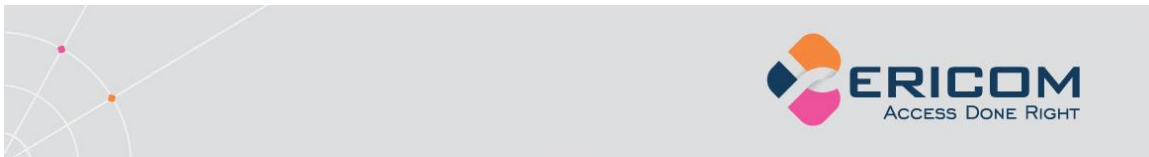
- シンプルな URL を指定して iframe をリダイレクトします。



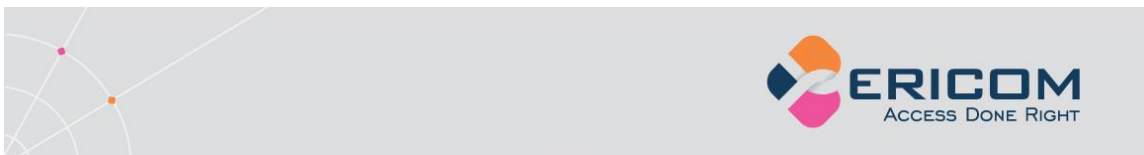
- iframe の親(コンテナ)にリダイレクトするには、URL に接頭辞 ^ を追加します。
- 最上位のコンテナにリダイレクトするには、URL に接頭辞 \$ を追加します。
- # と指定すると、その URL はブラウザのタブを閉じます。

## サンプル HTML : AccessNow に Cookie を渡す

```
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8">
<script>
<!--
function createCookie() {
var address = document.forms['cookieform'].address.value;
var fulladdress = document.forms['cookieform'].fulladdress.value;
var username = document.forms['cookieform'].username.value;
var password = document.forms['cookieform'].password.value;
var domain = document.forms['cookieform'].domain.value;
document.cookie = "EAN_autostart=true; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_address="+address+"; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_full_address="+fulladdress+"; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_username="+username+"; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_password="+password+"; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_domain="+domain+"; expires=0; path=/";
}
function testCookie() {
document.cookie = "EAN_autostart=true; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_address=Rdpdemo.ericom.com; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_full_address=Rdpdemo.ericom.com; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_username=demo; expires=0; path=/";
document.cookie = "EAN_password=demo; expires=0; path=/";
```



```
//document.cookie = "EAN_domain=; expires=0; path=/";
}
function readCookie(name) {
var nameEQ = name + "=";
var ca = document.cookie.split(';');
for(var i=0;i < ca.length;i++) {
var c = ca[i];
while (c.charAt(0)==' ') c = c.substring(1,c.length);
if (c.indexOf(nameEQ)== 0) {
alert( c.substring(nameEQ.length,c.length));
}
}
}
// -->
</script>
</head>
<body>
<form name="cookieform" action="#"><p>
address: <input name="address"><br/>
RDP Host: <input name="fulladdress"><br/>
Username: <input name="username"><br/>
Password: <input name="password"><br/>
Domain: <input name="domain"><br/>
</p></form>
<a href="javascript:createCookie()">Set Cookie</a><br/>
<br/>
-----<br/>
<a href="javascript:testCookie()">Test Data</a><br/>
<br/>
<!--
```



```

-----<br/>
<a href="javascript:readCookie('EAN_address')">Read address</a><br/>
<br/>
<a href="javascript:readCookie('EAN_full_address')">Read full address</a><br/>
<br/>
<a href="javascript:readCookie('EAN_autostart')">Read autostart</a><br/>
<br/>
<a href="javascript:readCookie('EAN_username')">Read user</a><br/>
<br/>
<a href="javascript:readCookie('EAN_password')">Read pass</a><br/>
<br/>
<a href="javascript:readCookie('EAN_domain')">Read domain</a><br/>
<br/>
-->
-----<br/>
<br/>
<a href="/accessnow/start.html">Launch</a>
</body>
</html>

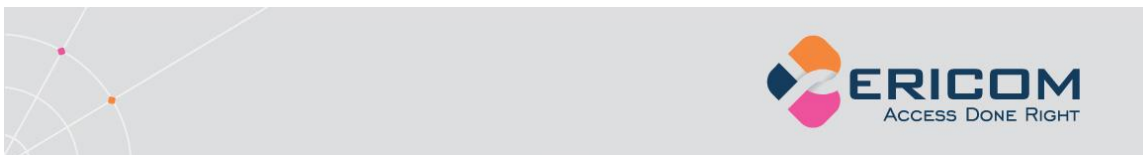
```

## AccessNow ファイル転送 API

AccessNow はファイル転送機能を備え、高度な機能をサポートします。 ファイル転送の実行ファイル *ANFileTransfer.exe* には、サードパーティのアプリケーションとの拡張された統合を提供する 3 つの機能が含まれています。

このセクションで説明される 3 つの機能を有効にした後、機能を使用するためにアクティブ・セッションをログオフして再度ログインする必要があります。





## ファイルのダウンロードを開始する

AccessNow のセッションで、ANFileTransfer.exe ファイル・パスを開きます。

ANFileTransfer.exe は AccessNow のインストールフォルダ(例 : C:\Program Files (x86)\Ericom Software\Ericom Access Server)にあります。このフォルダはインストール時にシステムのパスに追加されます。

完全なパスはこちらのレジストリからも利用可能です。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\App Paths\ANFileTransfer.exe これにより、直接 ShellExecute を使用して実行ファイルを起動することが可能になります。

使用例は以下のとおりです:

アプリケーションは常に、出力ファイルを c:\ に *test.csv* という名前で作成します。ファイルは常に同じ場所に存在するため、ダウンロード・プロセスを簡略化するためにショートカットを作成することができます。

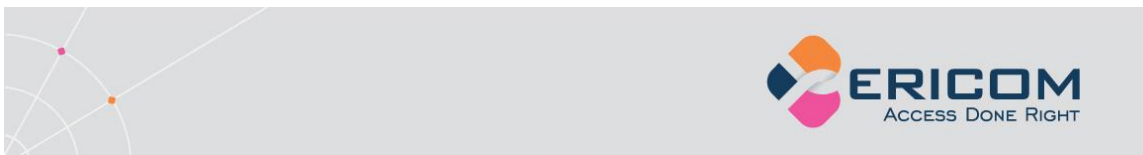
「ANFileTransfer.exe c:\test.csv」を起動すると、test.csv を 3 つのステップ(ダウンロードの開始、ファイルの選択、OK のクリック)ではなく、1 つのステップでダウンロードされます。この操作は、出力ファイルのダウンロード・プロセスを自動化するためにサードパーティのアプリケーションからも呼び出すことができます。

**注意** ダウンロード先は事前に設定できません。ダウンロードされたファイルは、Web ブラウザで指定したフォルダに保存されます。

## アップロード・フォルダを指定する

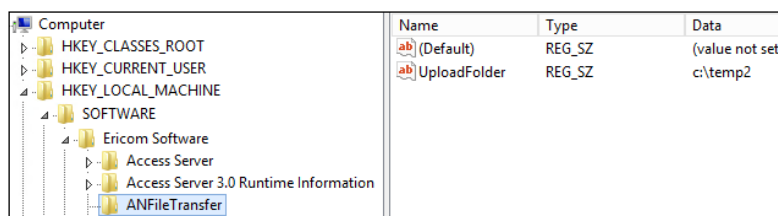
ダイアログをユーザに表示する代わりに、アップロードされたファイルは常に事前設定されたフォルダに直接保存されます (同じ名前のファイルは最新のバージョンで上書きされます)。

フォルダ・パスはレジストリ設定を使用して指定します。HKEY\_CURRENT\_USER または HKEY\_LOCAL\_MACHINE から読み込まれます (HKEY\_CURRENT\_USER を優先します)。アップロード・フォルダのパスを設定する前に、ユーザがその特定の場所に書き込



みアクセス権を持つことを確認します。アップロード・フォルダのレジストリ・キーの設定は以下のとおりです:

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadFolder
- HKEY\_CURRENT\_USER\SOFTWARE\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadFolder



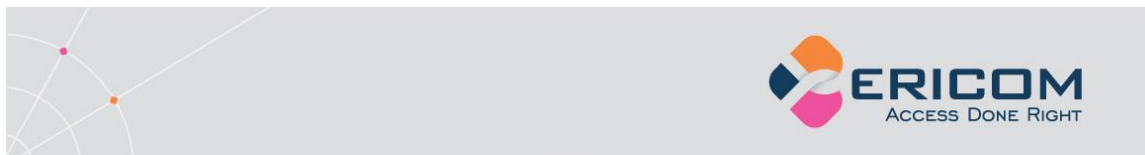
以前の 32 ビットのバージョンの Access Server を実行している 64 ビットのシステムでは、レジストリ・キーは以下に配置されています:

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadFolder
- HKEY\_CURRENT\_USER\SOFTWARE\Wow6432Node\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadFolder

**注意** レジストリ・キーがアプリケーションと一緒にインストールされていない場合があります。キー存在しない場合には、レジストリに追加します。ラベル *ANFileTransfer* と文字列キー *UploadFolder* を使用して新しいキーを作成します。

使用例は以下のとおりです:

アップロードされたすべてのファイルはユーザのホーム・ディレクトリに保存される必要があります。 *UploadFolder* をホーム・ディレクトリのパスまたはドライブ(例:U:)に設定します。ユーザにより AccessNow でファイルがアップロードされた際、アップロード・パスを要求されることなく、すべてのファイルは指定された場所に保存されます。重要なシステム・ファイルを含むドライブ(例: C:)にアクセスできないようにすることをお勧めします。



## アップロード・ファイルごとに起動される実行可能ファイルを指定する

アップロード・ファイルごとに実行可能ファイルを起動するよう、コマンドラインの引数としてファイルのパスを使用して定義することができます、バッチ (.BAT)ファイルもサポートされています。

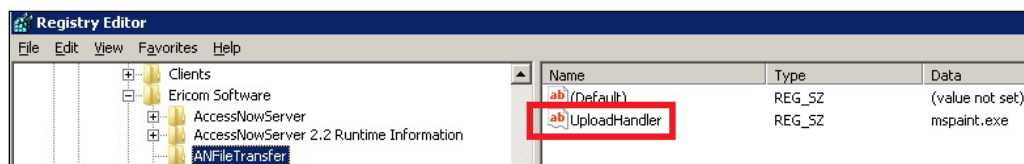
実行可能ファイルは、レジストリ設定を使用して指定されます。

HKEY\_CURRENT\_USER または HKEY\_LOCAL\_MACHINE から読み込まれます (HKEY\_CURRENT\_USER を優先します)。アップロード・ハンドラー用のレジストリ・キーは以下のとおりです:

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadHandler
- HKEY\_CURRENT\_USER\SOFTWARE\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadHandler

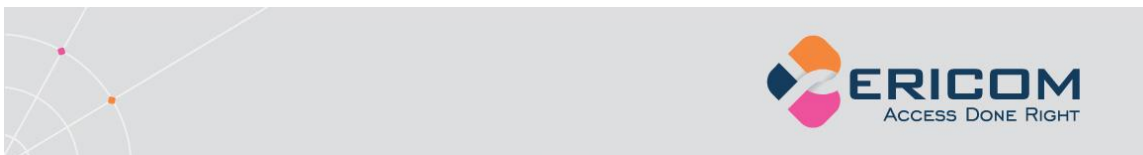
以前の 32 ビットのバージョンの Access Server を実行している 64 ビットのシステムでは、レジストリ・キーは以下に配置されています:

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadHandler
- HKEY\_CURRENT\_USER\SOFTWARE\Wow6432Node\Ericom Software\ANFileTransfer, REG\_SZ value UploadHandler



使用例:

マイクロソフト ペイントのみエンドユーザに公開します。 *UploadHandler* を公開されたアプリケーションのパスに設定すると、ファイルがアップロードされるごとに自動的にこのアプリケーションが開始されます。アップロードされたファイルはアプリケーションのパラメータとして使用され、自動的に開かれます (このファイル が特定のアプリケーションに対して有効なファイルである場合)。



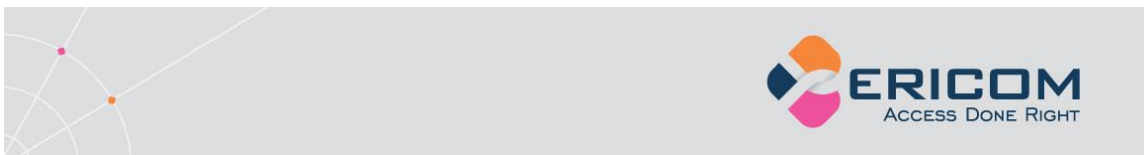
**注意** この機能は単一のハンドラー・アプリケーションを指定するため、渡されたファイルをアプリケーションが適切に開くことができるかは確認されません。複数のファイル形式をサポートする必要がある場合、この機能を使用してファイル形式をチェックする BAT ファイルを実行し、それぞれの形式に適したアプリケーションを開始します。

## キーボード・ロケール(レイアウト)値のテーブル

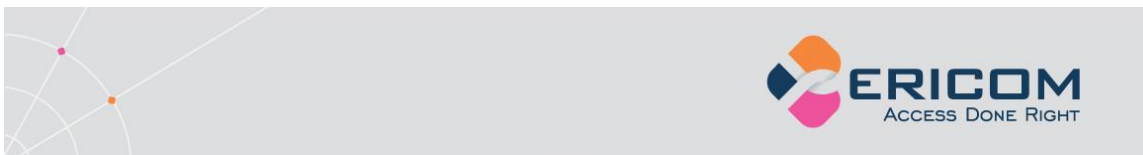
以下のリストには、キーボード・ロケール設定用のすべての外国語キーボードのロケール値が表示されています。このテーブルを使用して、cookie `EAN_keyboard_locale` で任意の設定を渡します。

例えば、日本語を設定するには、`EAN_keyboard_locale=E0010411` を使用します

```
<option value="00000409" data-lang="en-us">STR_ENGLISH_US</option>
<option value="00000809" data-lang="en-gb">STR_ENGLISH_UK</option>
<option value="0000041C" data-lang="sq">STR_ALBANIAN</option>
<option value="00000423" data-lang="be">STR_BELARUSIAN</option>
<option value="0000141A" data-lang="bs">STR_BOSNIAN</option>
<option value="00010405" data-lang="bg">STR_BULGARIAN</option>
<option value="00000804" data-lang="zh-cn">STR_CHINESE_SIMPLIFIED</option>
<option value="00000404" data-lang="zh-tw">STR_CHINESE_TRADITIONAL</option>
<option value="00000405" data-lang="cs">STR_CZECH</option>
<option value="00000406" data-lang="da">STR_DANISH</option>
<option value="00000413" data-lang="nl">STR_DUTCH</option>
<option value="00000425" data-lang="et">STR_ESTONIAN</option>
<option value="0000040B" data-lang="fi">STR_FINNISH</option>
<option value="0000040C" data-lang="fr">STR_FRENCH</option>
<option value="0000080C" data-lang="fr-be">STR_FRENCH_BELGIUM</option>
<option value="00001009" data-lang="fr-ca">STR_FRENCH_CANADA</option>
<option value="0000100C" data-lang="fr-ch">STR_FRENCH_SWITZERLAND</option>
<option value="00000407" data-lang="de">STR_GERMAN</option>
<option value="00000807" data-lang="de-ch">STR_GERMAN_SWITZERLAND</option>
```



<option value="00000408" data-lang="el">STR\_GREEK</option>  
 <option value="0000040D" data-lang="he">STR\_HEBREW</option>  
 <option value="0000040E" data-lang="hu">STR\_HUNGARIAN</option>  
 <option value="0000040F" data-lang="is">STR\_ICELANDIC</option>  
 <option value="00000410" data-lang="it">STR\_ITALIAN</option>  
 <option value="E0010411" data-lang="ja-jp">STR\_JAPANESE</option>  
 <option value="E0010412" data-lang="ko-kr">STR\_KOREAN</option>  
 <option value="00000426" data-lang="lv">STR\_LATVIAN</option>  
 <option value="00010427" data-lang="lt">STR\_LITHUANIAN</option>  
 <option value="00000414" data-lang="no">STR\_NORWEGIAN</option>  
 <option value="00010415" data-lang="pl">STR\_POLISH</option>  
 <option value="00000816" data-lang="pt">STR\_PORTUGUESE</option>  
 <option value="00010416" data-lang="pt-br">STR\_PORTUGUESE\_BRAZIL</option>  
 <option value="00000418" data-lang="ro">STR\_ROMANIAN</option>  
 <option value="00000419" data-lang="ru">STR\_RUSSIAN</option>  
 <option value="0000081A" data-lang="sr">STR\_SERBIAN\_LATIN</option>  
 <option value="00000C1A" data-lang="sr">STR\_SERBIAN\_CYRILLIC</option>  
 <option value="0000041B" data-lang="sk">STR\_SLOVAK</option>  
 <option value="00000424" data-lang="sl">STR\_SLOVENIAN</option>  
 <option value="0000040A" data-lang="es">STR\_SPANISH</option>  
 <option value="0001040A" data-lang="es-ar">STR\_SPANISH\_SOUTH\_AMERICA</option>  
 <option value="0000041D" data-lang="sv">STR\_SWEDISH</option>  
 <option value="0000041F" data-lang="tr">STR\_TURKISH</option>  
 <option value="00000422" data-lang="uk">STR\_UKRAINIAN</option>  
 <option value="00000452" data-lang="cy">STR\_WELSH\_UK</option>



## 7. SECURITY

### 信頼された証明書を使用する

Access Server のインストールには、セキュリティで保護された SSL 接続のための自己署名証明書が含まれています。Google Chrome などのいくつかのブラウザでは、SSL 暗号化された WebSocket 接続に自己署名証明書は使用できません。

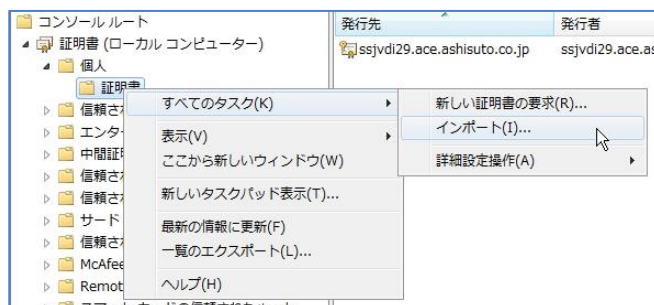
Opera ブラウザでは、サーバ証明書が署名されていない場合、ユーザに通知が行われ、続行するかを確認されます。

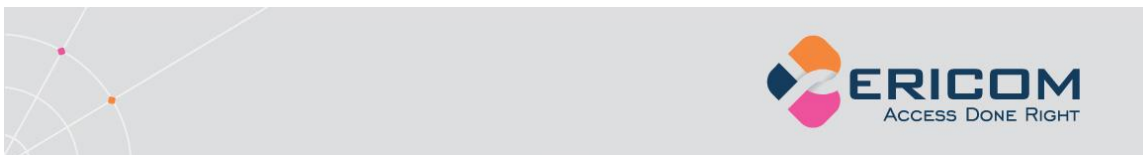
Chrome OS、Safari 5.x、Firefox では自己署名証明書は使用できません。これらのブラウザから接続する場合、Access Server 内に信頼された証明書をインポートするか、AccessNow がプロキシとして使用されている場合は Ericom Secure Gateway 内に信頼された証明書をインポートします。

安全な WebSocket 接続 (wss) を確立するには、信頼された証明書も必要です。

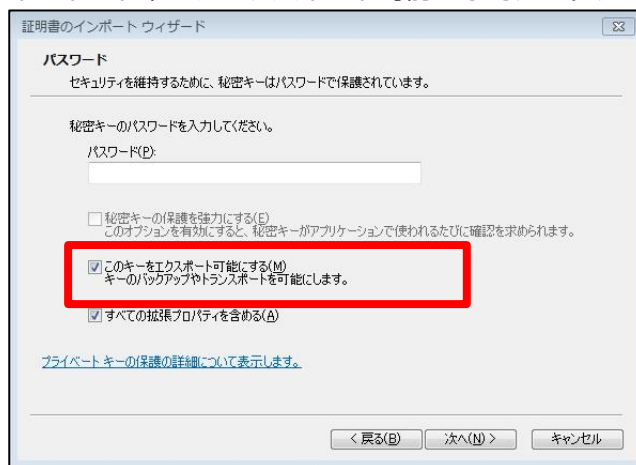
Access Server 内に信頼された証明書をインポートするには、以下を実行します：

1. コンピュータストア(個人 | 証明書)に信頼された証明書をインポートします

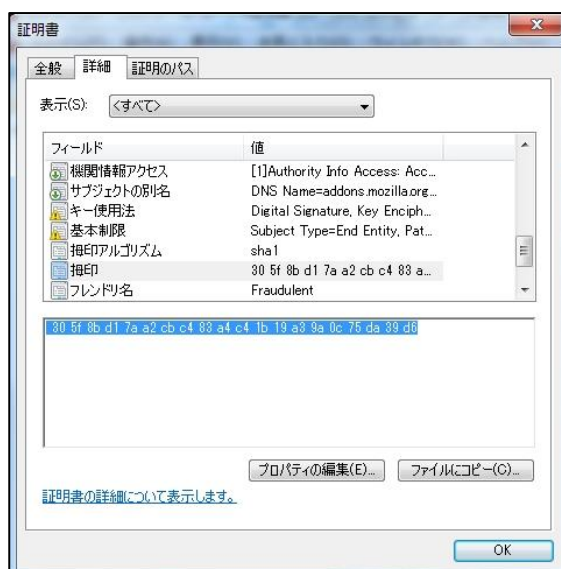




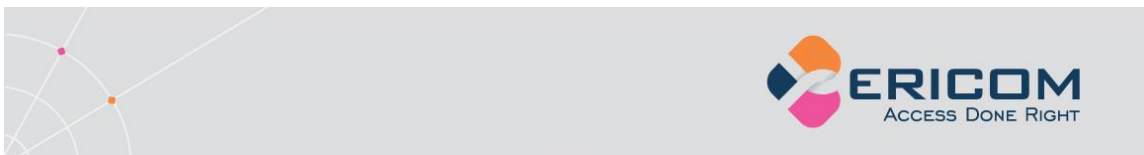
2. インポート中に、エクスポート可能としてチェックマークを入れます。



3. 証明書の詳細タブに進み、拇印をハイライトします。



4. 拇印をコピーします (CTRL+c)。
5. Access Server Configuration コンソールを開き、Security タブに進みます。



6. 拇印を *Certificate Thumbprint* フィールドにペースト(CTRL+v)します。

**SSL Certificate**

Friendly Name:  
 SAN:  
 Thumbprint:  
 Issued By:  
 Valid From:

Issued To:  
 Valid To:

Change Certificate

To change the above certificate, enter a new certificate's thumbprint below (eg: f5 a8 6e a2 a8 9c 55 2a 8d f6 b7 d7 ef 22 ...).

Certificate Thumbprint:  [Restore Default](#)

7. Apply をクリックした後、Access Server を再起動します。

Friendly Name:  
 SAN:  
 Thumbprint:  
 Issued By:  
 Valid From:

Change Certificate

To change the above certificate, enter a new certificate's thumbprint below (eg: f5 a8 6e a2 a8 9c 55 2a 8d f6 b7 d7 ef 22 ...).

Certificate Thumbprint:  [Restore Default](#)

Note: this change will only take effect after you click apply AND restart AccessNow.

[Ericom Support](#) [OK](#) [Cancel](#) [Apply](#) [Restore Defaults](#) [About](#)

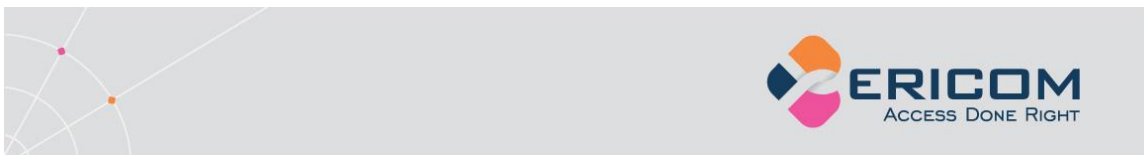
8. Access Server サービスを開始すると、利用可能になります。

**注意** VDI 環境では、ゴールド・イメージ上にワイルドカード証明書をインストールし、信頼された証明書と Access Server の既存設定のイメージのクローンを作成することが可能です。

## 信頼された証明書を使用する利点

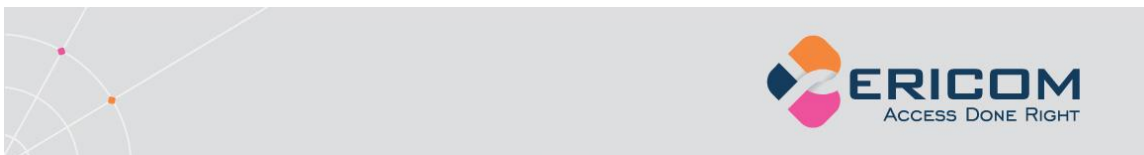
AccessNow を本番環境で使用する場合、信頼された証明書の使用を強くお勧めします(特に Secure Gateway が使用されていない場合)。Mac 上の Safari などの一部のブラウザでは、信頼された証明書を使用していない接続が拒否される場合があります。また、特定のブラウザでは、HTTPS が有効にされた URL を使用する場合に信頼された証明書が必要となる場合があります。Secure Gateway や Access Server に信頼された証明書をインストールすることで、様々なブラウザから安全かつ安定した接続が可能となります。





## Ericom Secure Gateway を経由したセキュリティで保護された 接続

Ericom Secure Gateway を使用する場合、AccessNow のブラウザ・クライアントと Secure Gateway 間の接続は常に SSL を使用して保護されます。Ericom Secure Gateway はデフォルトで自己署名証明書と一緒にインストールされていますが、信頼された証明書もサポートしています。Ericom AccessNow と Blaze で使用するためのインストールと設定の方法の完全な説明については、「Ericom Secure Gateway 管理者用マニュアル」を参照してください。



## 8. SSL VPN の設定

Ericom AccessNow は HTML5 WebSocket をサポートしている SSL VPN と互換性があります。WebSocket をサポートしていない SSL VPN では、HTTPS アクセスに Ericom Secure Gateway(ESG)が必要となります。

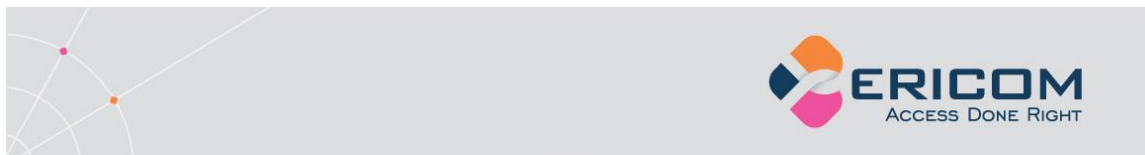
Ericom AccessNow は Juniper の SA 7.4 SSL VPN でテストされており、このセクションの内容は Juniper の管理者用の資料に基づいています。その他のサードパーティ SSL VPN アプライアンスでの設定は、ここで説明される手順と同様となります (違いのほとんどは用語に関するものです)。

### バージョン 7.4 での Web プロキシ(ダウンロード不要)

Juniper version 7.4 では WebSocket がネイティブでサポートされています。

AccessNow のリンクは、web アプリケーションとして Juniper の web インターフェースに公開されます。新しい AccessNow 接続を公開するには、Juniper の管理者ページに移動し、以下を実行します:

- 1) Resource Profiles | Web | *New Web Application Resource Profile* に移動します。
- 2) ユーザへの表示が必要な AccessNow 接続の *Name* を入力します。
- 3) *Base URL* フィールドに AccessNow の URL を入力します。



Web Application Resource Profiles >  
**New Web Application Resource Profile**

Type: \* Custom  
 Name: \* My Server and AccessNow  
 Description:   
 Base URL: \* http://myserver.test.local/accessnow/start.htm  
 Autopolicies:   
 Autopolicies are resource policies that correspond to this resource profile. In order for your autopolicies to work effectively, you must enter a fully qualified domain name in your base URLs.  
 Show ALL autopolicy types >>

☒ **Autopolicy: Web Access Control**  
 Use this autopolicy to control access to web servers and URLs.

Delete [Up Arrow] [Down Arrow]

Resource	Action	
http://myserver.test.local:80/accessnow/*	Allow	Add

Examples:  
 http://\*.domain.com/public/\*  
 https://www.domain.com:443/\*

- 4) Save and Continue をクリックします。
- 5) Roles ダイアログで AccessNow のリンクへのアクセスが必要なすべてのロールを追加し、Save Changes をクリックします。
- 6) Bookmarks タブで接続用の任意のラベルを入力します。

Web Application Resource Profiles >  
**My Server and AccessNow**

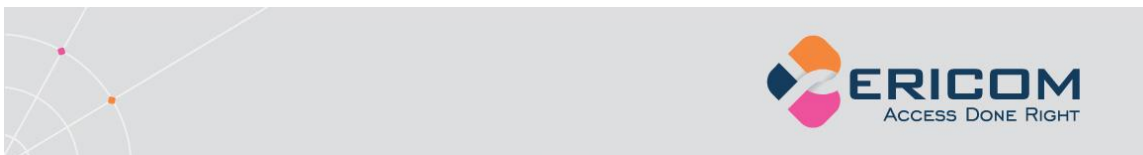
Resource Roles Bookmarks

The bookmark below has been automatically created and added to the selected roles for this profile. Add can be created as part of this profile by selecting "New bookmark". If you don't want all roles to receive delete it below, or modify the bookmark's list of roles. To modify the order in which bookmarks appear to the Roles page.

New Bookmark... Duplicate Delete...

Bookmark	Used by role(s)
My Server and AccessNow http://myserver.test.local/accessnow/start.html	All selected roles

- 7) ユーザが Juniper へログインする際に、AccessNow のリンクが Web ブックマークセクションの下に表示されます。(例: My Server と AccessNow) そのリンクをクリックし、AccessNow で公開されたアプリケーションやデスクトップに接続します。



## 以前のバージョンの Juniper での Web プロキシ (ダウンロード不要)

バージョン 7.4 以前の Juniper、またはその他の SSL VPN では WebSocket がネイティブでサポートされません。SSL VPN を利用して AccessNow を使用するには、HTTPS モードが必要です(このマニュアルの「HTTPS モード」の章を参照してください)。HTTPS モードは、Ericom Secure Gateway(ESG)のインストールにより有効になります。Ericom AccessNow と ESG を使用するには、以下の手順を実行します:

- 1) Resource Profiles | Web | *New Web Application Resource Profile* に移動します。
- 2) ユーザへの表示が必要な AccessNow 接続の *Name* を入力します。
- 3) Gateway の AccessNow URL アドレスを *Base URL* として入力し、Save をクリックします。

Web Application Resource Profiles >  
**New Web Application Resource Profile**

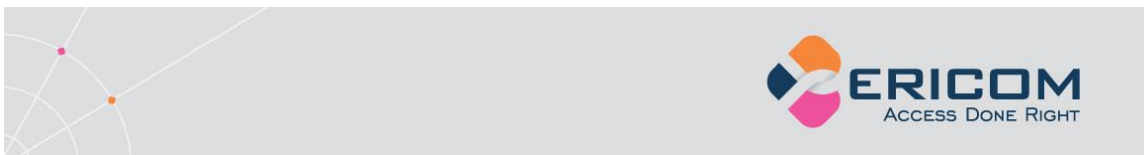
Type: \* Custom

Name: \* AccessNow Connection to RDP Host

Description:

Base URL: \* https://GWaddress.com/accessnow/start.html

- 4) *Autopolicy: Web Access Control* に移動します。
- 5) 自動的に入力されたアドレスを編集し「accessnow」という名前のサブフォルダーを削除します。  
<https://GWaddress.com:443/accessnow/>ではなく、<https://GWaddress.com:443/>が正しいリソースです。
- 6) *Save and Continue* をクリックします。
- 7) *Roles* ダイアログで、AccessNow リンクへのアクセスが必要なすべてのロールを追加し、*Save Changes* をクリックします。



- 8) ユーザが Juniper にログインする際、AccessNow リンクが Web ブックマークセクション に表示されます(例: RDP ホストへの AccessNow 接続)。そのリンクをクリックし、AccessNow で公開されたアプリケーションやデスクトップに接続します。

**注意** リンクが正しく解釈されない場合、Gateway Server (web コンポーネントがホストされている場所)に対して定義されている Passthrough Proxy policy が存在しないことを確認してください。

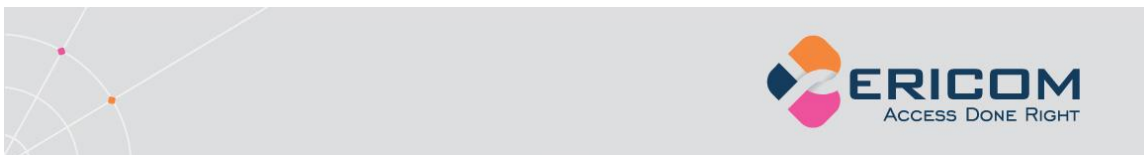
## Cookie を使用した SSO

Single Sign-on Config で、「Remote SSO」を設定します。

「Send the following data as request headers」を AccessNow の URL に設定します。

任意の cookie を設定します。例:

- EAN\_username=<USER> (これは username を渡します)
- EAN\_password=<PASSWORD> (これは password を渡します)
- EAN\_autostart=true (これはスタートページを経由せずに接続を自動開始します)
- その他の AccessNow パラメータも cookie として渡すことができます。



☒ **Autopolicy: Single Sign-on**

Use this autopolicy to automatically pass user credentials to the Web application.

☐ Basic Auth  
☐ NTLM  
☒ Remote SSO

☐ POST the following data  
 Resource : \*   
 Post URL : \*   
☐ Deny direct login for this resource  
☐ Allow multiple POSTs to this resource

Delete

Label	Name	Value	User modifiable?
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	Not modifiable
<input type="button" value="Add"/>			

☒ Send the following data as request headers

Resource : \*

Delete

Header name	Value
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="Add"/>	
<input type="checkbox"/> Cookie	EAN_username=<USER>
<input type="checkbox"/> Cookie	EAN_autostart=true
<input type="checkbox"/> Cookie	EAN_password=<PASSWORD>

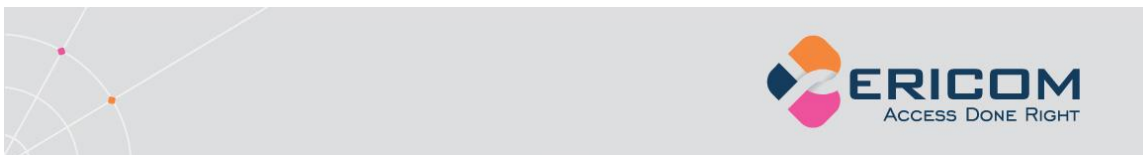
## POST を使用した SSO

Single Sign-on Config で、「Remote SSO」を設定します。

「POST the following data」を AccessNow SSO URL (/AccessNow/sso)に設定します。

任意の cookie を設定します。例:

- EAN\_username=<USER> (これは username を渡します)
- EAN\_password=<PASSWORD> (これは password を渡します)
- EAN\_autostart=true (これはスタートページを経由せずに接続を自動開始します)
- その他の AccessNow パラメータも POST を介して渡すことが可能です。



☒ POST the following data

Resource : \*

Post URL: \*

☐ Deny direct login for this resource

☐ Allow multiple POSTs to this resource

Delete

<input type="checkbox"/>	Label	Name	Value	User modifiable?	
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	Not modifiable	<input type="button" value="Add"/>
<input type="checkbox"/>	Username	EAN_username	<USER>	Not modifiable	
<input type="checkbox"/>	Password	EAN_password	<PASSWORD>	Not modifiable	
<input type="checkbox"/>	Autostart	EAN_autostart	true	Not modifiable	

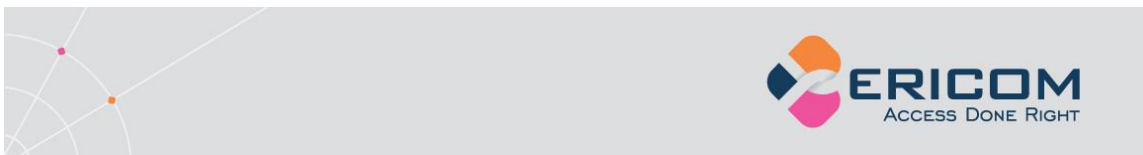
## ポータルでの複数ブックマークのサポート

複数の AccessNow ブックマークが固有の方法で相互にパラメータを渡すのを防ぐために、設定 *noSaved* が AccessNow 3.3 に追加されました。

設定 *noSaved* は、接続を開始する前に保存されたすべての設定を無効にします。(リセットボタンをクリックすることと同様)

この機能に関する注意事項:

- この設定のデフォルトは *false* です。
- この設定は *config.js(settings.js)*、URL または cookie を経由して指定できます。
- この設定が使用された場合、GUID (ライセンス)が保持されます。

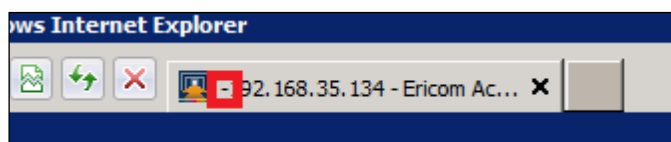


## 9. HTTPS モード

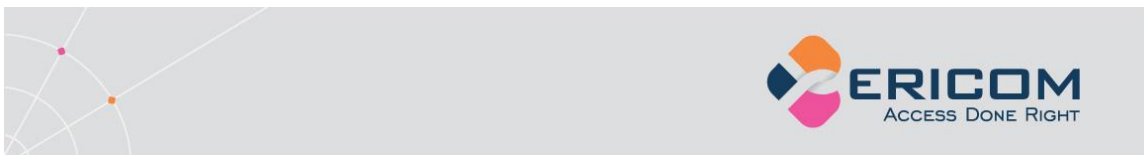
WebSocket がサポートされていない環境では、Ericom AccessNow はすべての通信が HTTPS 経由のみとなる HTTPS モードで実行することが可能です。HTTPS モードは、WebSocket が利用できない場合に使用されます。WebSocket はより良いパフォーマンスを提供するため、可能な場合は WebSocket が使用されます。Microsoft Internet Explorer 9 または HTTPS トラフィックのみをプロキシするゲートウェイを使用する場合、HTTPS モードが必要です。

この機能を有効にするには、Ericom Secure Gateway が必要です。AccessNow の web ページは Secure Gateway にビルトインされている web サーバを使用して提供することが必須です(ファイルは Webserver/AccessNow フォルダ内に保存されています)。HTTPS をサポートするために AccessNow を有効とするには、以下を実行します:

- 1) Access Server を任意の RDP ホストにインストールします。
- 2) Ericom Secure Gateway (RDP ホストや Access Server である必要はありません) をインストールします。対象とするエンドユーザ・グループがアクセス可能なサーバに Ericom Secure Gateway をインストールする必要があります。
- 3) HTTPS を使用して Access Server に接続するには、Secure Gateway の AccessNow URL を入力します。(Secure Gateway には AccessNow の web コンポーネントが含まれています)  
<https://<securegatewayaddress>/accessnow/start.html>
- 4) 対象とする Access Server へのパラメータを start.html ページに入力する。
- 5) 接続時に、HTTPS モードがアクティブとなっている場合には、ブラウザのタブのアドレスに「-」の記号が接頭辞として追加されます。







**注意** HTTPS モードでは、Canvas をサポートしているブラウザが必要です。Microsoft Internet Explorer 8 (またはそれ以前)などの古いブラウザは、サポートされていません。

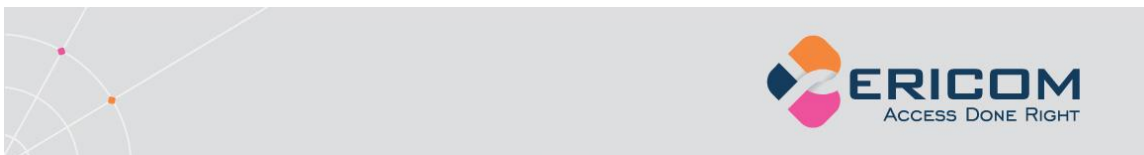
## HTTPS モードを強制する

AccessNow のすべての接続で HTTPS モードの使用を強制することが可能です。

HTTPS モードを強制するには、`config.js` ファイルで次のように設定します: `onlyHTTPS: true,`

デフォルトの `config.js` ファイルでは、このラインはコメント・アウトされています。コメント記号「//」を削除しファイルを保存すると、今後のすべての AccessNow の接続でこの設定が使用されます (エンドユーザのブラウザ・キャッシュのクリアが必要な場合があります)。

**注意** Websocket が利用できる可能性がない環境では、HTTPS を強制することで接続プロセスが高速化します。これは、AccessNow が Websocket を使用した接続を試行して試行が失敗するまで待機する必要がなくなるからです。



## 10. テクニカル・サポート

### AccessNow で TS/RDS CAL (接続デバイス数)を使用する際の注意点

接続デバイス数による TS/RDS は、Ericom AccessNow では完全にサポートされていません。AccessNow には**接続ユーザ数による TS/RDS CAL**を使用することを強くお勧めします。

AccessNow は接続デバイス数による CAL を使用して ターミナル・サービスやリモート・デスクトップ・サーバ に接続できますが、その場合は既存の mstsc 接続に追加して別のライセンスが使用されます。

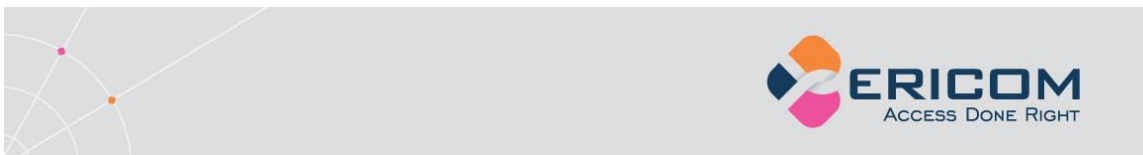
AccessNow はブラウザ内で動作します。同一マシンの異なるブラウザからの接続ごとに、接続デバイス数による TS/RDS CAL が追加で 1 つ使用されます。

例えば、ユーザが mstsc.exe でターミナル・サーバに接続した後、Google Chrome で AccessNow に接続した場合、2 つの接続デバイス数による CAL が使用されます。さらに、同じユーザが同一マシンから Firefox を使用して接続した場合、もう 1 つの接続デバイス数による CAL が使用されます。

### ブラウザ拡張機能の競合

ブラウザ拡張機能やツールバーが、web ページに JavaScript コードを挿入する場合があります。これにより、一部の Web ページで動作に悪影響が生じる可能性があります。

AccessNow が正常に動作しない場合、アクティブなブラウザ拡張機能やツールバーの無効化またはアンインストールを試してください。アンインストールまたは拡張機能の無効化後、それらがアクティブでないことを確実にするために、ブラウザを再起動します。



## AccessNow での外国語の印刷

AccessNow プリンタを外国語の文字を含むコンテンツの印刷に使用する場合、出力される PDF ファイルに誤った文字が表示される場合があります。

この問題を解決するには、*blaze.txt* にエントリ **ps2pdf mode:i:0** を追加します。

Blaze.txt ファイルは AccessNow web コンポーネントの *resource* フォルダにあります。

Access Server のインストールでは、このファイルは *Access Server | WebServer | AccessNow | resources* にあります。

例	正	誤
韓国語	ㅏ	ᄒ
ロシア語	Над	н д

## AccessNow Gateway (Jump)モードの制限

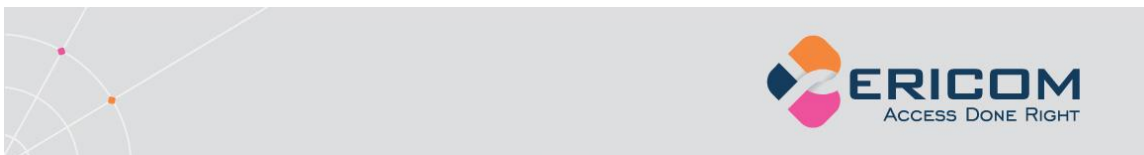
可能な限り Access Server を RDP のホストにインストールすることをお勧めします。

Access Server が RDP ホストに対して Gateway として使用されている場合、複数ユーザで障害が発生する原因となります。以下の機能も利用できなくなる可能性があります：

- ファイル転送のアップロードとダウンロード
- キーボード自動検出はモバイル・デバイスでは利用できません
- 指定ライセンス (RDP ホストで TSSAgent が必要です)
- TSSAgent の自動ログオフ検出

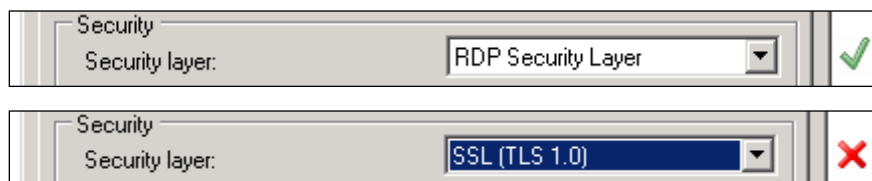
## HTTPS と SSL 暗号化

AccessNow ページが HTTPS を使用して web ブラウザに配信された場合、デフォルトで SSL 暗号化がオンになります。通常、モダン・ブラウザが HTTPS を使用して配信されたページから起動される場合は、ブラウザは WebSocket 接続の暗号化を必要とします。



## RDP SSL を無効にする

Access Server には、RDP ホスト上で有効にするためのネイティブ RDP へのアクセスが必要です。このため、*RDP Security Layer* を *SSL* へ変更しないでください。*RDP Security Layer* の設定は変更せず、ビルトインの AccessNow SSL 暗号化または Secure Gateway を使用して SSL 暗号化を追加します。



## Mac での右クリック

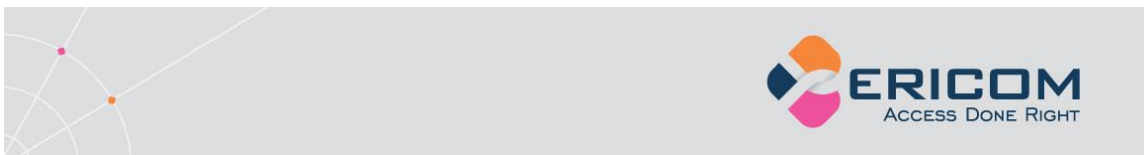
次の方法で Mac OS X システムで右クリックを使用します: コマンド (Command)+左クリック

## 接続を確認するためのデモサイト

インストールした AccessNow 環境への接続でユーザに問題が発生している場合には、そのユーザがこちらの URL を使用して Ericom のデモサイトに接続できるかどうかを確認してください。 <http://demo.ericomaccessnow.com/>

デモサイトが表示される場合には、そのブラウザは AccessNow に対応しています。このデモサイトは Ericom Secure Gateway と信頼された証明書を使用して、ポート 443 を経由して通信しています。デモサイトがユーザ向けに動作する場合は、以下の点を確認します:

- ユーザのブラウザと AccessNow 環境を仲介する AccessNow ポートが利用可能であること。デフォルトのポートは 8080 です。
- 信頼された証明書が Ericom Secure Gateway または Access Server で必要な場合があります。

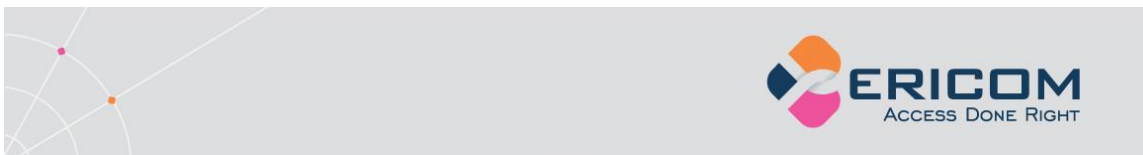


## サポートを依頼する

Ericom Software にサポートを依頼するには、以下の情報を記載して

[CA@ERICOM.COM](mailto:CA@ERICOM.COM) に E メールを送信してください。

- どのバージョンの Ericom AccessNow を使用していますか? (概要情報を参照してください)
- 接続先(ホスト)のシステム/オペレーティング・システムはどのタイプですか? オペレーティング・システムは 32 ビットと 64 ビットのどちらですか? RDP は有効になっていますか?
- 接続元(クライアント)のシステム/オペレーティング・システムはどのタイプですか? オペレーティング・システムは 32 ビットと 64 ビットのどちらですか?
- ホストでポート 8080 が有効になっていますか? (ファイアウォールで例外に設定されていますか?)
- 表示されているエラー・メッセージ。
- この問題が発生している人数・マシン数・ホスト数。



## ERICOM について

Ericom Software はアプリケーション・アクセスと仮想化および RDP アクセラレーション・ソリューションの世界的なリーディング・プロバイダです。Ericom は 1993 年以来、様々なシステム上で実行される企業向けのミッション・クリティカルなアプリケーションへのユーザのアクセスを支援してきました。Microsoft Windows ターミナル・サーバ、仮想デスクトップ、レガシー・ホストなどの幅広い環境に対応しています。弊社は米国、英国、EMEA 地域にオフィスがあります。また、北米、ヨーロッパ、アジアおよび極東に渡り幅広いパートナーのネットワークを構築しています。弊社の顧客ベースは 3 万以上で増加を続けており、これまでに 700 万以上のインストールが行われています。Ericom に関する詳しい情報については、弊社 Web サイト (<http://www.ericom.com>) をご覧ください。

製品とサービスに関する詳しい情報につきましては、最寄りの拠点までお問い合わせください。

弊社の Web サイトもご覧ください: <http://www.ericom.com>

### North America

Ericom Software Inc.  
231 Herbert Avenue, Bldg. #4  
Closter, NJ 07624 USA  
Tel +1 (201) 767 2210  
Fax +1 (201) 767 2205  
Toll-free 1 (888) 769 7876  
Email [info@ericom.com](mailto:info@ericom.com)

### Western Europe

Ericom Software (UK) Ltd.  
11a Victoria Square  
Droitwich, Worcestershire  
WR9 8DE United Kingdom  
Tel +44 (0) 845 644 3597  
Fax +44 (0) 845 644 3598  
Email [info@ericom.co.uk](mailto:info@ericom.co.uk)

### International

Ericom Software Ltd.  
8 Hamarpeh Street  
Har Hotzvim Technology Park  
Jerusalem 91450 Israel  
Tel +972 (2) 591 1700  
Fax +972 (2) 571 4737  
Email [info@ericom.com](mailto:info@ericom.com)